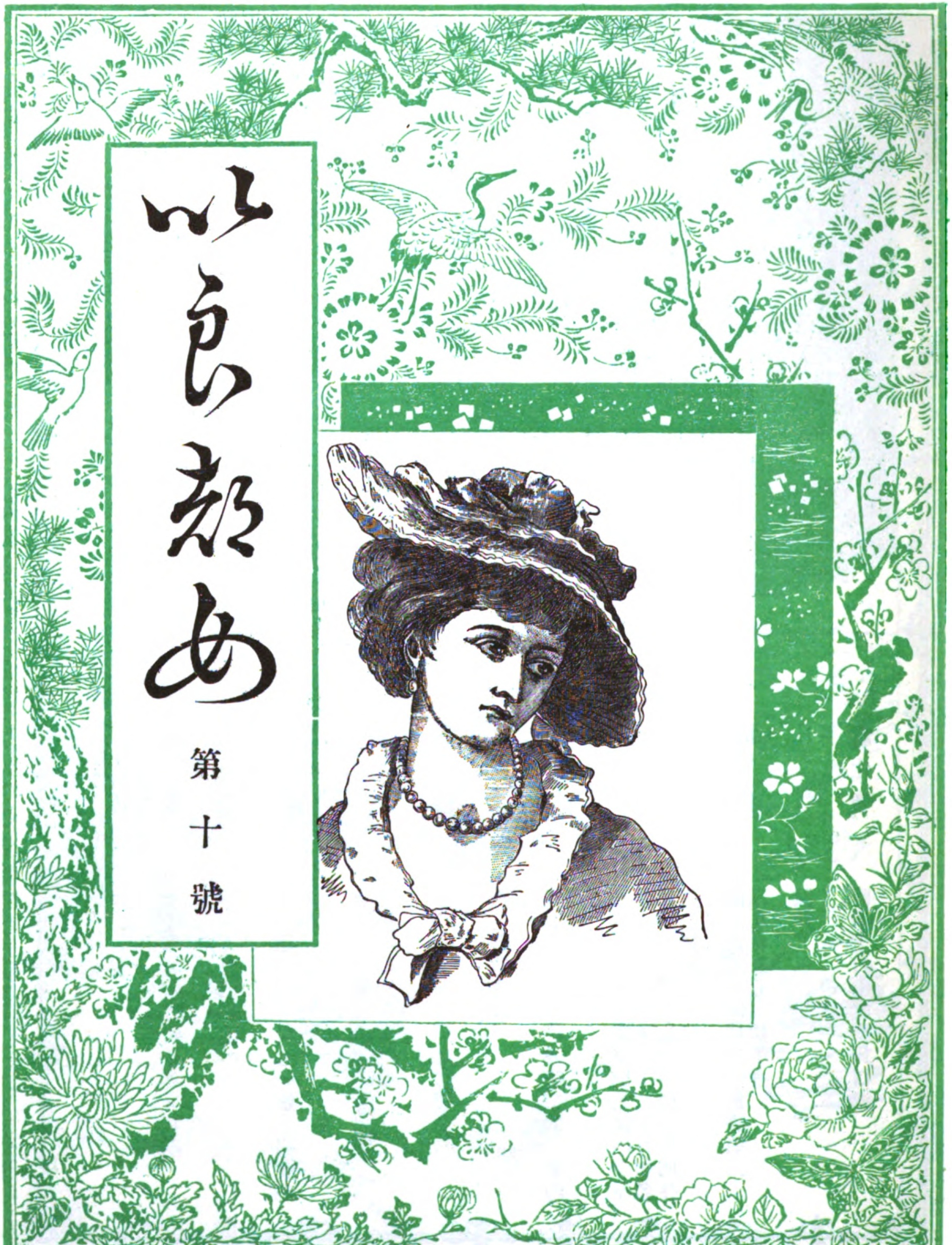
明治二十一年四月十日發兌

以良都女

第十號



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第八號第九號目次

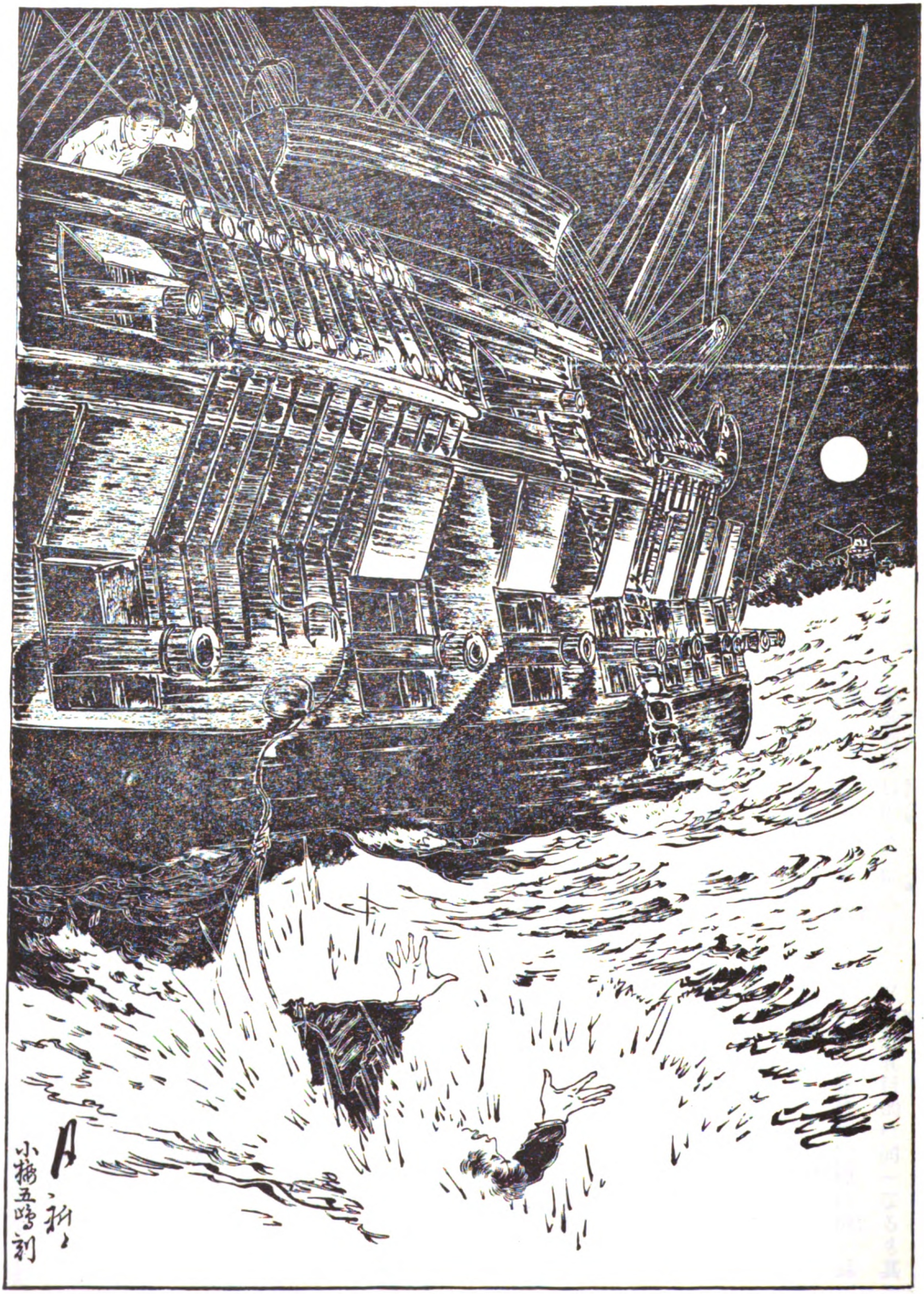
いらつめ。　婦人と新聞紙。
姫かゞみ。　ふくさづゝみ第五回。
講義。　まアがれッと第三回。
文藝美術。　美術の話(前號の續)。樂典初歩。唱歌(新年の唱歌。花鳥。春の遠山。武藏野の山吹。下總なる藤澤村を過ぎて)。新形の封袋。繪畫。
學藝。　炭薪を儉約する法。
叢話。　鼠れとし。
批評。　交際の栞(シヲリ)。女子教育新論。俠美人。
家政要論。　注意の價値。
月報。　數件
通俗衛生學。　醫學士竹中成憲氏口述。
社説。　膝とも談合。
小説。　空行く月第一回。
家政要錄。　小供育て方(其二)。室内の裝飾。
文藝美術。　樂典初歩。唱歌。溝渠の歌。夜光の珠(下總なる藤澤村を過ぎて)。歌(花二十五首。外四首)。新工風髮飾。日本古代男女裝束。
學藝。　蟲の話…蚤。
叢話。　酒井忠直の夫人。團欒の餘波。現時物語婿引の卷(襖越の品定)。
批評。　學海居士里見八犬傳の批評の批評。
講義。　用器書法稽古の仕方。
餘興。　幽靈をあらさそ新法。
月報。　十二件
附錄の畧譜表。
通俗衛生學。　醫學士竹中成憲氏口述。
附錄。　競漕の歌。上眞行氏作

いらつめ第十號目次

社説。　女子教育の方針…妻えらみ。
小説。　空行く月第二回。
家政。　育兒法…をとなしい娘…病室の心得…甘い母親
流行。　新流行の櫛。簪。笄等…流行すべき見込のある蝙蝠傘。
學藝。　蚊の話(密書二)…忠義な馬。
叢話。　桃と櫻の會話。
講義。　用器書稽古の仕方第二回…葦の髓から天井。
雜纂。　日本古代男女裝束第九號のつゞき…足袋の沿革…十二ヶ月和名の解釋。婦人と電話機…人間生死の統計。
批評。　依田氏八犬傳批評の批評第二…みなれさを…捨小舟。
月報。　數件。
衛生會。　醫學士竹中成憲氏口述。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

どぼんと立た水煙それと同時に魂消る一聲



嗚呼之を阿輝が聞いたなら

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十號

社説

女子教育の方針

井底の小天地を以て無上の樂土としたる日本人も三百年太平安樂の夢覺て忽ち漠々たる世界の競爭場裏に出で大邦强國の間に介立して一歩を敵に讓らざらんとす。その苦心想ふ可きなり。　蓋し日本今日の狀態を譬れバ恰も浦島の子が三百年振にて其古鄉に歸りたるが如く、茫然として夢の覺めたる心地せらるゝも素より其筈にして以來ハ復た仙宮の裏に安坐して膏粱に飽く能ハず一襲の衣も必ず力役して之を着、一椀の食も必ず力役して之を食ハざる可からざるの境界に遭遇したるに類せり。　西洋の文化ハ遙に數十歩の前に在り、日本の文化ハ遙かに數十歩の後に在り。　其競爭の難き知る可きなり。　是故に苟も日本の人たる者ハ其目的皆此文化の懸隔を除きて彼此互に相追逐するに至るの一點に皈着す可く、日本の制度も亦此結果に達するを以て其第一の目的と爲す可きハ多言を待たずして明白なり。　敎育の如きも豈獨り此目的を外にし得可きの理あらんや。

夫敎育の目的に二種あり。　又假令其目的ハ同一なるも其方法の異なるよりして結果に至て自から分れて二種の別を爲すことあり。　二種の目的とハ何ぞ理論を主とし、實際を主とすること是なり、二種の結果とハ何ぞ敎育を受けたる者の理論に長ずると、實際に長ずること是なり。　夫日本ハ短少の時間に非常の進歩を爲さゞる可からざる者なり。　此進歩を爲さんとするにハ亦非常の力を要すること固より言迄もなきことなり。余儕ハ日本人の極て多數の手を有せんことを欲す。　多數の口を有することを欲せざるなり。　是故に日本の敎育ハ其男子に關するものと女子に關する者とを問ハず務めて實用を主とし其敎育の方法に至ても亦た務めて實用に適するの人物を生せんことを求む可し。　余儕ハ一の「ニュートン」を生ずるよりも寧ろ一の「ワット」を生せんことを望み。一の「ハンナ、モアー」を生ずるよりも寧ろ一の「ジョセフヒン」を生せんことを希ふものなり。

夫れ女子ハ日常必要の智識の外必ず相當の品格、多少の藝能なかる可らず。　是故に語學の類より理學、化學、動植物學の類に至る迄實際に必要なき部分と離れ其態度を養成し其藝能を付與するに必要ある丈ハ固より之を女生徒に授け、女子

も亦自から之を研究するハ當然のことなるべしと雖ど、余儕ハ博言學者を女流に出すことを求めず、理學者、化學者、動植物學者を女流に出すことを求めざるなり。　女子をして良妻たらしめよ、名媛たらしむること勿れ賢母たらしめよ、碩學たらしむること勿れ。

近來女子教育の進む恰も旭日の天に昇が如し。　昨ハ女學校の設立を新聞紙の雜報に見、今ハ女子に關する新雜誌の發刊を新紙の廣告に見る、其勢殆ど將に底止する所を知らざらんとす。賀す可し、祝す可し。　此勢にして數年を經ば女子にして專門の學科を修めんと欲するもの、輩出するに至るも豫じめ測知す可からず。　然れども今日は是最も多事の時なり。今日ハ是何人と雖ども其力を最も適應したる事業に用ゐざる可からざるの時なり。今日ハ是最も賢母良妻を求むるの時なり。　潛心苦慮して學科を修るの結果ハ女子をして日常瑣末の事を屑しとせざらしむるに至り、終に賢母良妻たるの資格を失ハしむること無を保す可からず。　而して其專門を修むるの結果果して如何と問ハゞ蓋し到底男子の右に出づること難かるべし。　是即ち婦人が自ら其身を處するに之を其最も利益ある方向に用ゐずして却て不得手なる方向に用ゆるものに非ずして何ぞや。　其他高等の教育を受るの婦人ハ女子高等教育の目的の決して一毫だも其家政を處するに適するの性質を奪ふに在らざるを考へ、其學ぶ所ハ專ら實用を主とし、學問に沈醉して家政の要務を屑しとせざることある可らず。　女子を教育するの學校も亦能く時勢に顧みる所ありて專ら實用を目的とし又其教育の方法も實際に長ずるの人を養成するを目的とせられんことを希望す。　近頃貴顯紳士の發意にて一大女學校を設立せんとし巳に概略其運に至りたる由道路の風聞あり。此學校の目的とする所ハ固より余儕の希望する所に反せざるべしと雖ども女子教育の駸々として進歩するを見て聊か時勢に感ずる所あり。感を記して女子教育家の參考に供す。

小說

「私ハ利口な女を女房に持たうと思ふが、しかし私よりよく物を知ッて居る奴ハいやだね」
「さうそんなら一人でくらす迄の事だ」

空行く月　　奥妙齋主人

第二回　でハ酷い斧が桂を海へ斫落します。

前回に一寸あらはれた二人の子供の素生を探りますに、男

の子は桂弓之助とて、或る藩の家老をして居た桂某の一人子で、仔細あッて其家は斷絶しましたので其頃出入をした商人、望月十五郎の手に引取られてその養育を受けて居たのです。その望月十五郎といふのは即ち阿輝の實父で、そういふ商賣が中ッて俄に鉅萬の富を貯ふる豪商となりすましたが、根が好古の癖が有る處から前に見えたとほり、袖が浦へ氣取ッた家をさへ造らせて住ッて居ます。　舊をいへば十五郎も弓之助の父親には一方ならぬ恩を受けて居ましたから其恩の一分を酬ふる心組で弓之助を引取ッて我子と一途に手落なく育てゝ居て、弓之助が望む儘十六夜に乘込ませる約束を爲、そのためには人々を招いて送別の宴をさへ開き、十分脫落なく出發させてやつたのは如何にも珍らしい深切です。　が、好んで人の爲に花を護る者は隙を見て其一枝を折らうと思ひ、悅んで人の爲に錢を數へる者は時に其中から一二錢を偸まうと思ふのが世によく有る例です。　十五郎が斯う昔の恩を忘れず弓之助をよく取扱ふのも矢張りまた、それ故に、好んで花を護るのや、悅んで錢を數へるのゝ仲間です。

まだ幼い頃から弓之助の心の弦は弛んで居ず、可愛らしい紅葉の手で戯に書く鳴鹿の歌の手跡にも三人張の力は見え、小さな鶯の口から心無く出す議論にも鏑矢の重量は附いて居ます。　特に家は卑しくなく特に年齡は阿輝と酷くも違はず、特に阿輝との間柄も重藤の編目全樣濃ですから、十五郎の胸にも「我子の婿に爲やう」と思込んだ斗の木地へ「全く婿に爲やう」との本塗が掛り、それで前のやうに深切に取扱つて居るのです。

既に船が出帆して仕舞つた跡の阿輝の心は、それから五六日の間は全く夢で夢を見て居る樣で、遂には萬國輿地圖を披いて航海の道筋を睨合ひ、果はそれをも暗記して仕舞ひ、また今迄は見たこともなかつた氣象の報告をもかならず眺めて、果は晴雨計の學者になりました。　切めて今も身の側に弓之助が居るといふ考へを造らうとて無理に弓之助の道具を瞬詰めて辛くもその氣に爲つて居たり、時には弓之助と應答の假聲をさへ爲て居るほどです。　其内に五日過ぎ、十日過ぎ、日の進歩と諸共に弓之助は益遠く隔つて行くのですが、しかし人情は妙なもので、次第に懷かしい考慮も稍薄く〳〵なり、早晩彼是の事に紛れて來るやうに爲りました。　けれど決して其考は悉く無くなつては仕舞ひません。　その考の名殘の糸は猶在來の緣を引いて居ます。　弓之助も全樣です。　忍

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

音で泣いて居た阿輝の顔や二階からちら〳〵した手拭は深い痕を目の奥に留めて、それが爲に、五六日の間、夢も十分には結べませんほどでしたが、元來この弓之助は望月からの紹介で此船へ乘込んだのですから、船中の人口も弓之助をば丁寧に取扱ひ、そして又弓之助はまだ純粹の船の者と定まりもしませんので隨分氣儘に面白く暮らして居るまゝ、やがて阿輝の事をも忘れるとは無く忘れるやうに爲り、甲板で相撲を取つたり、碇泊の途で水泳を行つたり、最初の望どほり活潑に過ぐす樣になりました。「偉な物は滊車と滊船」と誰やらも云ひました。滊車は兎に角、滊船の勢ましさ、滊船は兎に角、軍艦の勇ましさ、御覽なさい、灰色は蛟龍を吹出だす烟突の立派なこと、雲を凌いで繩梯子を馳登る水夫の敏捷いこと、凄じい鐵張の船體には沈着な大砲が厚く砲門から顔を出し、また風と爭つて吼哮る帆柱には翩飜と國旗が翻るなどの有樣。之を見れば弓之助の奮發の火の手は機關は爐の中より燃來になつて、吊床も錦の衾に優り、走舸も屋形船より好いやうに思はれて今の世界は快樂の練物、今の身は快樂の犧牲、そして今の身の有樣は快樂の正味です。

日を經て船は紐育へ着し、其處にそれから三年の月日が瞬く間に過ぎて、やがて弓之助は十九となつた春、久しぶりで日本へ歸り、直に阿輝の家へ着いて逗留して居ますと阿輝は又既に十六となつて居るほどですから、最早久々で顔を見合つた二人の間の嬉しさもむしろ、妙です、陽には現れません。二人とも互に愛たく生長したのを見れば云ふに云はれぬほど悦ばしく無くは無いですが、しかし二人の心には極悪さが無情にも邪魔をして居るので表向に見ゆる交情好さは以前ほど際立つて見えません。併しながら首の垂れる稻に限つて實は多く、遲く流れる川に限つて幅は廣いです。　阿輝の目には弓之助の形が頼もしい、勇ましい紳士とのみ見えて居て、而して弓之助の目には阿輝の姿が愛らしい、懐かしい淑女とのみ見えて居ます。　弓之助が約束どほり携歸つた石版畫を例の濱邊で二人で見る、それを二人は機會として繪に付て聲低く物語をして居ます。その時の二人の嬉しさ、譬へれば美術家が虻の羽音に睡睡しながら、おのづから散る花片を見送つて居る時の心持と殊る處はありません。

それを見る阿輝の親の嬉しさはいろ〳〵亦どれほどでしやう。

親の心は妙なもので、まだ小供だと思ふ我子が年齢にませた事を爲れば、たとひ其所業は歹くても、あゝ渠もそれ程

に心が大人びて來たかと怒恚の中に何となく尚一片の悦ばしさを忝なくも有つて居て、現に我子が年齡も行かぬに廓通など爲ることを知れば、駭いて怒り騒ぎながら、それでも何處やら嬉しいやうに思つて居るのは よく有ることで、口吻の黃い作者などは只想像する斗ですが、既に妙齡の子を持つ方には定めて經驗が御有りでしやう。　阿輝の親もまた左樣で、阿輝の今の樣子をば三年前に比べて見れば見るほど如何にも貴婦人らしく爲つたやうに思はれますので、阿輝の親達には一層の賴母しさが加はり就てはまた弓之助の人品が、望月の婿と言はれても耻かしくない程になつたのも仝じく歡悅の原素です。

快樂は月日を經めたがりますが、月日は快樂を注めたがりません。　阿輝一家と弓之助との間の快樂もやがて過行く月日に催促されて又弓之助もその快樂と袂を別ち、浪枕に碇泊で日を過ぐすことになり、ふたゝび今度は歐羅巴へ航海しやうとて出掛けました。　その、暇乞の趣きは諄々しいゆゑ述べません。　それから船は印度洋から通常の航路を經て終に地中海に入りましたが其處で一ッ弓之助の身には畢生の究厄とも言ふべき大變な事が發りました。

實に冴亘る月の中にも暗い斑文があり、輝く日の中にも黒い點があります。　十六夜の乘組の中にも有繫意地のわるい者が無くも有ません。　弓之助が始めて乘組んだ時から兎角弓之助をば新參者と卑しめて嘲笑ふ一人の乘組は久藥九郎といふ男子で、最初は弓之助に阿諛つて永く交際を爲やうと勉めましたが、如何にも氣障な人品ゆゑあまり弓之助も之と心易く爲ませんので、それを九郎は怨恨に思ひ、それから何角につけて弓之助の障害を爲て居ます。　その、火夫の中では此九郎などは第一の熟練家ですから船の中の人も流石陽に之を面斥は爲ないものゝ、併し蔭では一同彈指して百足のやうに思つて居ます。　それを本人は人傳に聞くか聞かないか、その性質の奇癖は毎まで經つても更に直らず、殆んど船の規則に觸れないばかり、我慢の擧動を行つて居ます。

とは言ふものゝ、その性質は十分に猛惡な類では有ません。冷淡に評すれば、心の量が小さいので、詰らぬ事にも顏色を變へて出放題の惡口を吐き、その憤怒の烈しい時には刄物三昧も爲兼ません。　それも恐嚇の爲かと云ふに其時ばかりは左樣で無く、全く心から出たことで、「何、渠奴を殺して乃公も死ぬ。高が死ぬばかりだ」と、強さうな事を言つて居ます。　そ

して口に毒が有るのが他に嫌はれる主な原因で、他の忠告を用ゐぬのがその第二の原因です。　ですから此樣な人物をば尊びもせず、卑しみもせず、程よくあしらつて居るのが上策です。　が、それは世に慣れた人が巧に行ふ手段で、まだ世には能くも慣れぬ弓之助には行へません。　それが終に畢生の究厄を惹起した源となりました。

船は地中海に入つて以太利の岸近く過ぐる頃、廊下を弓之助が箒で掃いて居ますと其處へ通り懸つたのがその九郎で、何心なく弓之助は塵を其方へ掃付けましたので、さア怒るまいことか、九郎は宛然火の樣に眞赤になつてじつと弓之助の肩を摑みます。

「おイ桂、さア何の意趣が有るのだ。　何故、他に塵を掃付けた」。

吼えるやうに罵られて弓之助も毎からの憎みが一同に込上げました。

「そればかりの事……つひ麁忽だ」。

「なに、そればかりの事だと……否に澄ますな。　つひ麁忽で譯が濟むか」。

「麁忽だから仕方が無いや」。

言つたばかり見向もせず、箒を振つて四邊を掃いて居ますので、例の九郎の奇癖は十分に現れて來て、今度は弓之助の箒を押へやうと爲る……弓之助はそれを振拂ふ……それと同時に二人の身体は早身構を爲始めました。

「他の邪魔を爲ると船將へ吩咐けるぞ」。

「吩咐けるも凄じい。　何故、乃公に掃付けたか、あやまらせない内は何處までも邪魔を爲るから左樣思へ。　ヘン、船將に諂つて乘組になつて居る奴とは憚りながら違ふから……おイ廊下の塵を取るよりも船將の御髯の塵を取るがいゝぜ」。

「おや、誰が何時船將へ諂つた」。

「誰だか知らない」。

「そんなら誰の事だ。　空威張も大概にするが宜いや。　早く行つて石炭の烟に燻つて居ろゥ」。

「なに……人……大きに御世話だ。　それより貴樣も塵と一途にさア斯ういふ樣になれ。

言葉と同時に弓之助の箒を急に奪取つて九郎は發矢と橫に拂へば不意のことゆゑ弓之助は肩の邊をしたゝか打たれてよろめきながら踏止まる、處へ折よく出て來たのは船將の某です。　大人しからぬ二人の樣に駭いて始終の樣子を聞けば

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

何れにも幾分か穩和でない處もあり升ので、二人と其處へ列べたまゝ一樣に叱りましたので、流石の九郎も仕方なくやがて喧嘩は其儘に物別となつて仕舞ひましたが、しかしそれが……困つたものでそ……猶九郎には殘念でたまりません。例の奇癖は九郎の胸に時を得て蔓延すれば口惜しさの枝も出、憎らしさの葉も現はれ、無念の實も生つて來ます。「あの船將の片手落な……あゝあの二才と贔負にして……何だ、え、まア、あの發端は那奴が他に塵を掃付けたから起つたのだ。あらば充分渠奴が惡いとは三歳兒でも知つて居る筈だ。それを、まアどうだらう、同じやうに叱るとは。矢張り先刻考へたとほり、渠奴と今夜竊と……もう時分は好いか知らん……あれ此時計は……今夜に限つて恐ろしく時計の針が遲いなア。ろして渠奴と投込んだなら十分露れないやうに用心しなくてはならないが、何惡い事を爲たとて白狀さへ爲なければ、もし間違つて乃公が糾されたとて何で白狀するものか。それで惡いければ死ぬ迄だ。あゝもウ大抵熟睡たらうなア。

あゝ心と支配する心を持つて居ぬ者ほど、その行爲は憎むべき物でも、憐むべき物は有りません。憎らしいと言へば憎らしい、可哀想だと言へば可哀想なこの九郎も今は全く煩惱の犬婆、辛い目と他に見せやうとて除々部屋から忍んで出ます。胸の妄想と切るべき洋小刀も今は命を斷るべき用意のため、持主の心もろとも淺く、狹い隱袋に入れられ。胸の劣情を掩ふべき洋襯衣も今と他の屍を掩ふべき用意のため持主の心もろとも最小さい釦鈕を脫されまそ。脚は鷺を學んで桂の閨へ忍込めば、この十九の月の弓之助は空の吊床に影を宿して帳の白雲の間に睡つて居ます。

九郎の胸の動搖は……實に九郎の脚の戰慄はほとんど形容の外に出て居ます。煩惱の手は徐に伸びます。煩惱の手は吊床を取下します。無殘網に罹つて居る魚は漁夫の喜悅となるのを知りません。夢はそもく何處をさまよつて居ましやう。今見て居るのは極樂の夢。けれどやがて見る夢は恐ろしい地獄のでしやう。

あゝら弓之助は眠つたまゝ船の縁まで連れられます。九郎もほとんど安心して……呼吸……呼吸……憤怒の色を含んだ呼吸、實に憤怒の臭を持つた呼吸をば橫へ竊と吹出して、扨今や投落さうと、慄へる脚に力を入れます。怨めしい無情の月は下絃の弓をハルかなる以太利の山を啣んだまゝ、纔に生殘る命脈をば海に一條引互して人の命の脆さを示し、情無い貪欲

な涙は黑んだ腮を針の小筵、落ちて來る命根を卷込まうと船の周圍で騷いで居ます。 帆綱に歎く風の音、是も棺を送る簫の聲です。 血烟を吐く烟筒の樣、是も最期の寫眞でそ。兎角する内……發矢、惡人……どぼんと起ッた水烟……それと仝時に魂消る一聲。
あゝ之を阿輝が聞いたなら……

家政要錄

小供の育て方　其三

祖母さんのある家にては兎角小供の育ちがよろしくありませんで俗には寵愛り過ぎるからだと申ますがこれには深い譯があります。 今水と湯と混せると水より溫かで湯より冷い者ができます。小供は生長の最も盛な時ですから熱が盛でそして此熱が極必要なのです。阿婆さんは最早身體の追々衰へる時ですから熱は少いです。早く申せば小供は湯、阿婆さんは水です。だから阿婆さんが抱て御寐ると湯と水を混せたと同しで小供は熱を奪られ祖母さんは熱を貰ひます。 大切な熱を小供は奪られますから小供は痩せます、段々弱て死にます。だから祖母さんに寵愛されるのは小供には難有迷惑で西洋では生の親でも抱いて寐ずにケットか輕い暖な夜具の中へ一人で寐かします。 前號に申し樣に時と定めて乳汁を與ふれば夜間乳を與ふる必要は少しもなく又暖かなれば小供は滅多に寤るなどはありませんから一人寐で少しも不都合はないのです。 淑女諸君も御子を育てられる時は成るべく私の御忠告を御採用あらんことを願ひます。 序ですから一寸申上ますが兎角嬰兒を珍らしがりて抱きたがる者ですが至極よろしくないことで自分で飼ひ出す迄は暖に靜に寐かして置て折々寐樣を替えてやるが一番よろしい。寐かして置て泣くのは倦て泣くのではなく外に必らず源因があるのです。起して置く癖をつけるとそれこそ起さがりて泣きます。 經驗家の話によりますれば小供の泣のに二種ありまして眞に苦い時や悲い時は涙を出して泣き、なんでもなく泣くには涙が出ないと云ひますから御經驗なさい。 小供が自分で飼ふ樣になりましてからは夜は早く寐さすが肝心で早く寐せば健康に生長ます。
尚は一寸皆樣の御注意を願たいは小供の涎衣と頭巾のことです。
涎衣は斷えず乾し柔軟なものを用ゐなくてはいけません。常に濕てゐますと顎と咽喉と胸部を冷しそれが爲め顎が赤く爛れたり咽喉がわるくなりたり(ヂフテリアともなり)胸

に焮衝を起して馬脾風や百日咳の源因ともなりますから度々乾たのと替て洗ふがよろしい。ついては木綿よりなによりフラ子ルは肌あたりがよく、肌の爲めにもよくその上溫で、洗ふにも易く乾きも早く價直も廉くて見奇麗ですから涎衣にはフラ子ルに限ります。

頭巾は夏でも冬でも小供には着らせなくてはいけません、小供の頭は極薄弱い者ですから日に照されますと血が頭にのぼりて逆上せますので癇などありてコロリと死ぬこともあり、又寒のために頭が風邪をひきて血がシンに集り内部の血管が膨脹てやはり腦病で死にます。まだ小供の耳ダレや頭にシラクモなどが出來たり顋が強く腫れて痛みたりするのも頭巾をかぶせないから主に起るのです。だから涎衣も頭巾も至極大切な者で小供の發育に大した關係がありますから御注意遊ばせ。　馬脾風や百日咳や痲疹の事を御話し致たいですが皆さんが御退屈でしやうから次號で申上ましやう。

「阿母さん、あのゥ兼ちやんが……私と毆つたよゥ……兼ちやんが私と」。「なに、兼ちやんが……左樣かえ……御前を毆つたの。まあ酷い子だねェ……宜いよ泣ないでも……口惜しいだらうが御菓子を上げるからまア御だまりよ。何かえ兼ちやんは突然御前を毆つたのかえ」。「うゝん、その前に私が兼ちやんを毆つたの」。

病室の心得。

病人の心持の善惡は申す迄もなく其本復するとせざるも看病の行屆くと行屆かざるによること最多し。　婦人は看病の法一通は心得をして叶はぬことなり。　もし不幸にして其親愛せる父母良人兄弟姉妹子供の病に罹りたるとき此心得なくては心ばかり如何に思ふとも其詮なきことなり。　醫者が病人の側に在るは晝夜二十四時間中唯數分間に止まるのみにて其餘の永き時間は看病人の介抱一つに在ることなれ、醫者の命を守らしむるも看病人なり病人を慰め快樂を與ふるも看病人なり、病室の器具と取片付け又之を掃除し時を違へず分量を誤らず藥を與へ、正しく時間を定めて飲食を與へ、深く心を用ゐて病人の容体を氣付け醫者の來るを待ちて之を告ぐる等看病人の務なり。　之を要するに看病人は病人の快樂の爲には力のあらん限り其務を盡さゞるべからず。　すべて病室を取締りて騷々敷からぬやう猥に無用の人の出入を嚴禁すべし。

空氣の流通をよくするハ病室に於て最肝要なることにして病人に直に當らぬ様時々襖、障子、窓を開放して新鮮の空氣を通ずべし。　西洋風の家屋にしてストーブの設あるときも夏分にハ烟突の中にランプを置くべし、かくするときハ空氣ハ常に新陳代謝すべし。　溫度ハ何時も華氏六十五度を適當とす。　病室内にてハ食物を煮又ハ衣桁衣紋竹等に脱捨の衣服を掛くべからず。　病人の手足厥冷するときハ湯婆又ハ瓦を熱してフランネルに包みて冷部に置くべし、又鹽、砂の類を熱し袋に入れて用ゐるも可なり。

病室の椽側、柱、板間等ハ日々拭き清むへし、始めハ濡雑巾を用ゐ後乾ける雑巾にて水氣を拭ひ去るへし。　枕頭にハ諸物を雜陳すべからず。　病人の顏と手とハ毎日二度必ず洗ふべし其他の部分ハ微溫湯と海綿に浸して拭ふべし。　病床の上敷寢着ハ度々取換ゆべし。

病人の神經ハ非常に頴敏なれバ病室ハ極めて靜なるを要す。　看病人が醫者又ハ見舞の人に話すには聲低く爽かに聞取り易く話すべし、決して小聲にて耳語すべからず病人の耳に聞取り難きときハ病人ハ自分の容體の六ヶ敷ことを話すならんと邪推し心地惡く感ずるが故なり。

眼病脳病等の場合の外病室を明るくすること必要なり。　病室されども眠を催すときは障子、窓に戸帳を引くべし。　病室は出來る丈心地よく感ずる樣なすべし。　かくなすときハ一擧兩得あり心清々しければ自ら身體の病患を忘るゝが故なり。　匂よき花、新しき書或ハ盆栽の類は病人の心目を娯むるものなり。

藥を與ふるにハ醫者の命を堅く守るべきハ勿論の事にして之を與ふる前に藥瓶をよく振盪して用ふべし。與へて後病人の容體をよく〳〵氣付け醫者の來るとき之を告ぐべし。

病人にはかゝさず食物と與ふべきものと考ふべからず。但し恢復期に至れバ滋養物によりて速に本復するものなれバ病人の食慾を促すべし。　勿論病人の食物も必ず醫師の差圖に隨ひ看病人決して自分の量見を用ふべからず。　病人の眠に就きたるときは藥又ハ食物を與ふる爲に眠を覺さすべからず。　食物を與へて進まぬ時又ハ半ば食したるときハ速に次の間に持行くべし。　然らざれバ病人の食慾を塞ぐことあればなり。

ある父が我小さき娘に向ひ「御前もちっと大人しくれなりよ。

阿父は御前が阿母さんに叱られるのを氣の毒で見ていられない」と云へバ小娘ハ平氣で「わたしハそンなに感じや爲ないよ、阿母さんの言ふとをよくハ聞た事がないから」

時の流行

此頃流行しはじめた中挿、簪、根掛の類。

是等ハ無論在來の丸髷や島田に付いた物ですから其御積りで御覽なさい。　趣向も何も新らしい方でもありません。

中挿　是ハ角形の蒔畫で形ハ可なり花奢な方です。　重に鼈甲臺の物が人氣に入るやうです。

簪　是も段無しの角琴柱です。　ろして簪の肩に疊目と打つたのを簪して居る人も有りますが、是もあまり好い評判でも有りません。

根掛　是ハ寫引の丈長で、是からそろ〳〵時候も暑くなります故この清潔とした飾が現れたのでしやう。　時にも寫引の代りに紅かけを掛けて居る人もありますが、多數でハありません。

櫛　是も牡丹形が第一の人氣で、次が可もなく不可も無い從來の利休形です。

流行する勢のある蝙蝠傘。

去年頃から一寸蜘蛛の巣形の蝙蝠傘が出ましたが、是が大層好評で、今年ハ人氣澤山に見えます。　また絹緣を付けたのを最早買入れた貴婦人も有りますから恐らくハ是も此夏可なり澤山にあらハれましやう。

學藝

蟲の話　其二

前號には續けて虱のお話を致すお約束を致しましたが、九類の六足蟲を述べ終るには先途も長く、下手の長談義はお退屈の種でもあるし、それに虱は淑女達にはご緣も遠ければ、無翅類のお話は丕ばかりに致して、第二類即ち二枚の翅ある六足蟲のお話に移ります。

第二。雙翅類。　にまいばねのむし

皆さんよくご存の蚊や蠅の類は總べて薄き翅が二枚生へて居ますが、此類を雙翅類と稱へます。　雙翅類の著しき徴候の概畧を擧ぐれば、口も細長き管にて液を吸ふに適し、眼は割合に大きくして或は全頭を蓋ふ程のものもあり。　其數は二にて單眼もあり複眼もあります。　單眼とは一の眼に一の眼玉

のあるを言ひ、複眼とは一の眼に六七十以上二千以下の眼玉のある眼を申します。　蚊の眼は單眼にて、蠅の眼は複眼です。少し眼力の強き人ならは肉眼で見ても蠅の眼がナヽコの樣に見へませうが、其ナヽコの樣に見へるのは眼玉の數が多き故です、尚精しきことは蠅の話の折に申述べましやう。　翅は極薄くして、足は長く飛行は自在です。

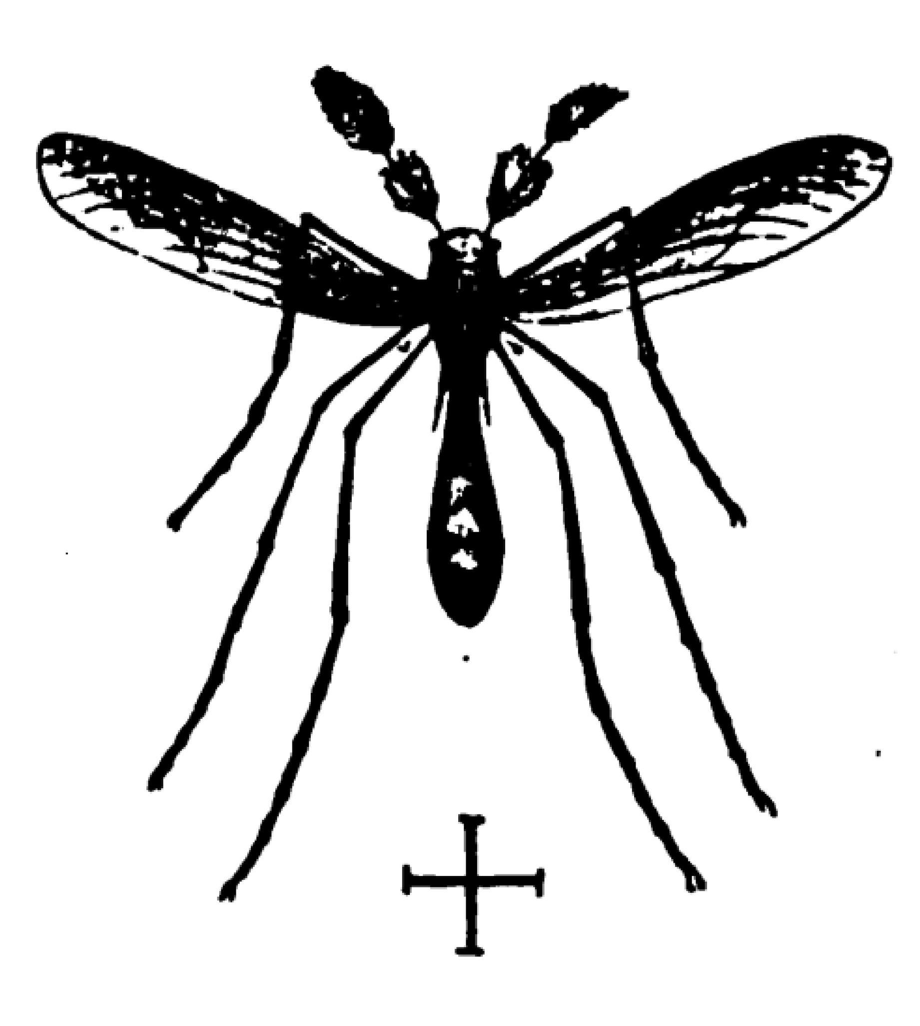
雙翅類の食物は樣々に異なれども花の露と動物の血が最も重な食物なれバ常に咲乱れたる花の間に飛違ふものもあり、又人の血を吸ふて人に惡まるゝもあり、又五月蠅抔と擯斥されて人の身體を甞廻るもあります。　されど此ウルサヽ先生はまたヽかの大食家にて動物の死骸を食盡しさり、腐れる植物をめしあがるお手際はあつはれ塵芥掃除會社の隊長です。　植物學の開山リニアス氏が申された言に三匹の蠅が其家族と共に斃だ馬を食盡す速さは餓た獅に等きといふことがあります。　さて是に由ても蠅の繁殖の速さと大食なことが推測られます。

是より人の血を吸ふ蚊のお話に移ります

蚊。　蚊は夏の初より毎夜出てゝ人を困める忌しき蟲てすが、蝙蝠や蟇の爲には吾等の鯛の刺身と同しでしやう。それハ兎に角此蟲の容體より生活の樣を精しく吟味すれバ覺えず蚊の惡らしいことを忘れて慈愛の心も起り自然物の構造の精妙なるにも驚かれましやう。　久しく寒暖計の管に其名を止めたる佛國の理學者レオマー氏ハ一時寢食を忘れて蚊の事を調べました。

今其大略を述べましやう。

蚊



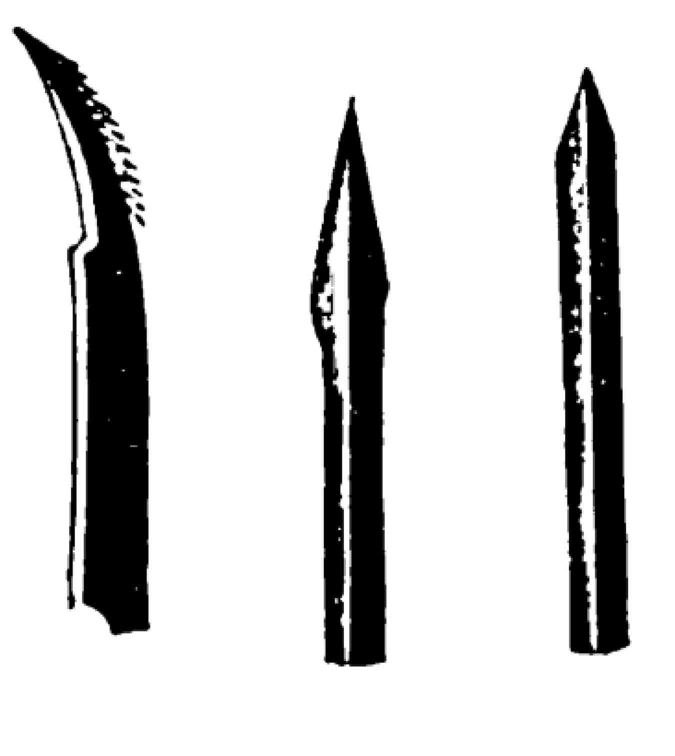
蚊の全體ハ上の圖の通にて頭部小さく、胸部稍太く、腹部ハ細長くして、休む時ハ翅を合せ、觸角長くして孔雀の尾に似、眼ハ割合に大きくして緑色なれども光線の都合にて赤く見へること多し。　又蚊の嘴ハ人の皮膚を螫して血を吸ふ道具なれバ蚊の爲にハ最も緊要なものにハ相違なけれども其精妙なことハ實に筆にハ盡せません。　一寸見ると蚊の嘴ハ細き管の樣ですが、此圖に示す三稜錐に似た嘴ハ皮膚を螫す器械の鞘にて、此鞘の内にハ六本の刄が入れてあります。　蚊が皮膚の上にとまる時ハ先づ嘴を鞘の儘にて皮膚にあて

がひ、頭にて強く壓せば鞘は中央より弓の如く曲り六本の鋭

蚊ノ頭

き刄は皮膚を切開きて嘴は大約五六厘も皮膚の中に鑚り込ます。　レオマー氏が蚊の生活を研究た時には痒を忘れて態〻蚊に螫せたと申すことです、勿論一匹や二匹の蚊に血を吸はせたとて五尺の身體の血が減る程のとはありませぬゆへ、追〻蚊の發生する時節も近寄ますから僅の血を賭にして蚊の嘴をお調なさつてご覽なさい。嘴の中にある刄は次の圖に示す樣な形なれども其尖端の鋭きとは譬へるものもありません。まづ蚊の嘴の刄が縫針より鋭

嘴の刄



い割合は恰も縫針が刀の鋒より鋭い割合と同じだと申すことです。　かく鋭き刄にて皮膚を螫れたとて痛くも痒くもない筈ですが、蚊に螫れた後で痒を覺えるのは此刄で切られた傷の爲ではなく、全く嘴より溢れ出る害液の爲でございます、それゆへ蚊の螫した後水にて其傷を洗ひ害液を薄めれば少しも痒は覺えませぬ。　蜂虻其外總て毒蟲に螫れた後に痛を起すは皆毒液の爲で御座います。

以上お話致した蚊は此蟲の十分に成長した時期の形にて恰度蚤の第三期や蠶の蛾となりたる期と同じです。　此蟲に翅の生へた後二三日を過れば牝は溜水の面に百五六十粒の團結た卵を產み其卵は一兩日の內に孵れて小さな孑孑となり、孑孑は數回外皮を脫替へると蠶に異ならず。　即ち孑孑は蚊の成長の第一期にて蚊の蛆です、又其頭部は小さく胸部は大きくして圓く、腹部は長くして八節に分れ、腹部の端に空氣を呼吸する喇叭形の管と、排泄物を出す花形の臀があります。　孑孑が頭を下に向けて折々水面に浮上るは喇叭形の管を空氣中に顯はして空氣を呼吸するのです。　口の側には刷毛に似た毛が生へ其毛は斷えず速かに動きて口の傍の水を動かして孑孑の餌を口中へ流込む功用を致します。　此有樣にて二週間若くは三週間に三度外皮を脫替へ、四度目に外皮を脫替へると蝦に似た形に變ります。　これが蚊の成長の第二期即ち蛹にて暫時は動きもせず、食物をも食しませぬ故蛹には運動の機關もなし、食物を取る機關もありませぬ。　しかし呼吸は蛹の爲にも必要ですから呼吸の機關は兎の耳に似た形にて頭

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の両側より生へ、蛹ハ此呼吸機を水面に出して休んで居ります、此時蛹はどんな夢を見て居るか居ないかを想像した學者ハ多分あるまいと思ひます。

一二週を經て蚊に變る期に近づけバ蛹ハ體を延して頭を水上に擡く、此時頭の中央自から裂けて、第三期の蚊の頭が裂口より顯ハれます。此時蚊の運命の危ふきと獅の洞に眠るに等しく又絶壁の頂に鯱立するに同じく實に七分三分の均調です、蛹の假面を被つた蚊がもし過つて蛹の假胴と共に水中に轉倒るゝとあらば忽ち水に溺れて命を殞しましやう。さてこれより蚊がいかなる工風にて脫化すかは皆さん實驗でお悟りなさい。記者ハ次號にて圖を御覽に入てお話を致しましやう、（五月の上旬に）。

子供の爲め。

馬ハ情深く智慧あるものと聞きつるが次の話を聞きて誠にさるものなるを知れり。一人の紳士馬上にて友人の許を訪ひ夜に入りて歸りたり。夜ハぬバ玉の黒花も分かぬ闇なりしに森の中を乘り過ぐるとき紳士ハ樹枝に礑と頭を打付け其儘眞逆さまに落馬して息絶えにけり。馬ハ此樣を見るや直に一里許元來し道を馳せて先刻訪ひし家に至りしに門ハ已に閉ぢたれバ幾度となく蹄をあげて門を叩きたり。家内の人ハ遂に目を覺し起き出てゝ見れハ馬ハ首を彼方に向け案内するもの丶如し。家内の人ハ仔細あらんと其尾につきて行けハ件の始末なり。皆々手を盡して介抱しければ紳士ハ息を吹返し死を免かれたりといふ。

叢話

花の木蔭。

紅葉山人

今はむかし花賣の翁あり。都はづれに花畑ひろくつくりなし、めでたき花咲く木草なんど、かづ／＼植集先日毎々に其枝を伐出して市に販ぎけり。今日は櫻をきらんとてまだきに起て畑にいづれば、ゆふべの雨はしらぬ顏の空あけぼののやう／＼白く、雲か雪かとまがふ眞盛の花、その雪にれく露、その雲にれく雨、難題の歌にもまだ見ぬ風景。百鳥はやさしく鳴たつれど、香にせゝらぎてよべ寢ぬ蝶は、翼をかさね夜具に曉をしらず。

賣物の花を飾と立る雨、大事の苫を撫てふく風、（花落知多少））と枕を欹て心を傷めた翁も、この物靜かなる景色に見とれ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て餘念なし。　折からいづこともなく怪しき音の耳にいる。蝶の寐言か。鳥のあくびか。イヤ。イヤ。なまめかしき話聲、《思へずわが花園にいとはしたなくてありければ》翁も年甲斐なく好心萌して音する方へ拔足ようかゞひよれば、この畑に年ふる櫻と古木は桃はかたらうなりけり。　不解語は無情のと不足言とるゝ花はかく人らしく物語るなればれ今にもわれ口なしは山吹が何をいひいでんもえらず、不思議〳〵と獨ごちて、木陰にひそむ翁。

ありとしらで桃は木とねむげなる櫻にむかひ、

《お八重さん、お早うぞんじます。　實に結構なお天氣でございます》。

《オヤお早う、ゆうべは降がつよかつたから花粧をだいなしにされるだらうとおもいましたが、今朝も大へん好い心持で、一風呂もいたやうで、せい〳〵としましたよ》。

《雨に惱める海棠とまをしますけれどあなたの雨を帶びてゐらつしやる姿は私共でもほれ〴〵いたしますよ》

《それはお早〳〵とありがたう》。

《いえお世事ぢやございませんよ……あなたがそんなにお美しくつて居らつしやるのを拜見いたすと、私などはイッソ薪にでもなつてしまいたうございます（人間なれバ尼にでもなつてしまいたうございますといふ處なり。　これ草木の人類と異なる所以なるか）……御覽の通り花は散てしまいますし、身體はやにだらけで……》

《それでもむかしは鶯鳴せた事もある……》

《ホヽヽ、そりや垣根のお梅さんの事ですよ》。

《オヤどうせう。わたしやきが違つたヨ。　ホヽヽ、だかねお千代さん。　おまへさんなんザアわたしから見りや五十年もわかし、まだ〳〵花盛の年なんだけれど全體おまへさんは色香のある時分から子をもつ仕度なんぞをするから、餘計世帶染るんだアネ、……それおまへさんの御奉公をして居たお邸の御姫樣、……ア、なんとかいつたつけネ、……何女房とか……さう〳〵西王母、西王母、あのお姫樣なんザアいつみてもおわかいネ、チットお手本におしよ》。

《私なんぞはお姫さまとは種がちがひますから》。

《ヂヤ梓木でもおしなオホヽヽヽ》。

《オホヽヽ、あなたの御親類内には小町だの、楊貴妃だのといふ御器量よしが居らつしやるから、其お血筋で、自然とおうつくしくつてゐらつしやる……》。

《イヽヱさうでもないんですヨヽ……だけども人さんが彼是いつてくれるもんですから、ついお作粧をして見たくもなり（女は己れを喜ぶものの爲に容つくる噫人でも花でも情に二つとないものですナ）また遊びにくる人の瓢簞酒の匂でもかいで、始終こんな色をしていゝ氣持でゐたのがまア德といふもんだとおもふから……これでも亭主といふやうなものをもつてごらん、サア世帶染る、子持になる、さうなつた曉にや誰もかまい手はなくなる、苦勞は多くなる、それよりやかうして氣樂に花を咲しておもしろく暮さうとおもつて……》

《でもあなた失禮ながらいつまでもさうお美しいわけには參りませんから花のある中によく御思案を遊ばさないと年をとつて後悔遊ばすやうな事が御坐いますヨ》。

《オホヽヽヽ其が世帶染るといふんでサアネ……どふで若い時は二度はなし……》。

《それ盛は二度とないものですから人にかれこれいはれる中に身體をおきめ遊ばせと申すのでございます》。

《ソリヤわたしだつて知つてまさアネ、知つてますけれど、人間でさへわかい内は花だといふのに、花が盛りの時を枯ッ木のやうな了簡でくらした日にやお天道樣へ對しても申譯がなりませんやネ、第一世帶染るなんていやな事かな、子持なんぞいや〳〵》。

《それでもあなた川邊の山吹さんをごらん遊ばせ、實のならないのを歌にまでうたはれて今じや大層御自分も苦に病でいらつしやいますが、色香ばかりが花の能でもございますまい。うつくしい花ばかりで實ともちませんければみんの人の目を喜ばせるばかりで、歌の相手かお酒の相手で……それじや植物と生れて參つた義務とやらを盡しませんも同樣……仇花だのむだ花などのいひ囃されるが殘念ぢやございませんか》。

《ハイハイ大きにお世話……わたしの世話はこゝの老ぼれが澤山いたします》。

《アレ御立腹遊ばしてはいけません。今のはホンの御話で……お氣に障りましたら堪忍遊ばせよ》。

《わたしや裏のお柳さん見たやうに堪忍袋とやらをぬふ内職はいたしません……植物はあなたに限りますヨお雛樣のお相手、お子さまはお一山お百文。……御自慢は御尤樣……》

櫻は一段と顏を赤め、花の唇くひ反ぶして萼もちぎる〳〵許りに頭をふりたて〳〵わめけば桃はたゞうつむきて芽にもつ淚の雫（案するにゆうべの雨なるべし）ポタリ〳〵。　櫻はな

をも語をつぎ
(ハイ憚りながら口巾つたい申分ながら日本の譽を賣る花でございますヨ。　敷島の大和心を人とはゞ、ヘエヘー、和歌にまでよまれます……花は何とやらに人は武士といひましたッけネ……ナンダへ。　脂だらけな、薄きたない風をして、それでも花が咲く内がお慰だ、……おまへさん百花譜といふものをごらんかへ……見た事がないとエ、ヘエー、利口なロをきくほどでもないねへ、……ソンナライつてきかしてあげやう……エート(桃は元來賤しき木ぶりにて、梅櫻の物好き風流なる氣色も見えず、譬へば下司の子、……下司の子の、俄かに化粧して、一戚を着かざり出たるが如し、エ、ト爛熳と咲いでたる中にも、首筋小耳のあたりに、うぶ毛の深き所ありていやし)ホヽヽヽ、首筋や小耳のへんに産毛なんぞがあつたら旅。　ろきじや手わしが脂だらけなのも無理はない……身分の賤しい者は名まで賤しいよ。　おまへの御身内には箒桃様とれつしやるのがあつたネ……ナニ犬櫻といふのがある……小癪な事をおいひでない。　犬の尿を掃くのはなんだい……生聞な……おまへ風情にかれこれいはるゝやうな罪はつくらなんヨ實こそ持たないが花にかけたら一點の非もうたれる事のないわたしだよ。　萬物の長だとかいつて威張ちらしてる人さへ手折るといふものが。　ハイ箒で掃くほど……オヤ失禮箒はれさし合だつたね。)

姿に似合はぬ惡口雜言桃のやさしさ見るにつけ、惡くき櫻をのを一枝鋏にかけ、其の息の根をとめてくれんと翁はハット立上り、低き小枝に手をかけて鋏みきらんとする折しも、一陣の風サッと櫻にふきあつきば空にちらきぬ雪はナリ／＼パラ／＼ナリパラナリパラ。　無殘や雨あがりの行潦恨をのこす馬蹄の塵。　桃は思はず聲をあげ。

(アレ八重さんアレあぶなふ……アーツ情ない、とう／＼泥水へお落ちなすつた)。

翁(エ、イ育て甲斐のない)。

講義

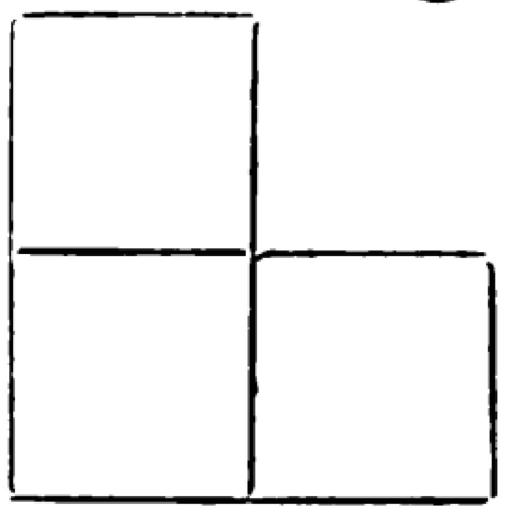
用器畫稽古の仕方(承前)

ひ、さ、述

前回には正方形と長方形の畫き方を述へましたが此等平面形の面積(坪數)を計算するには最初に目安を定めおきます。此目安は計らんとする者の大小によりて違ひます。　曲尺一寸四方の正方形を目安とするときは之を一平方寸と名けま

す。 そこで六寸方の正方形は其二邊の長を掛合せば六六、三十六となる即此正方形の中には目安の一平方寸が三十六ありますから之を三十六平方寸ありと申します。 長方形の場合にて巾四寸長九寸あれば長短の邊を掛合し四九、三十六となり是も三十六平方寸ありますから此正方形と長方形は其面積等しと申します。 其前一平方尺又は一平方里を目安とするも同じ道理です。 そこで次の問題を解いて御覧。

(五)巾四寸長九寸の長方形の一枚の紙あり今之を二個に切り接合して一個の方形を作るに如何に切るべきや但し紙を損失することなきを要す。



(六)上圖の如き三個の等しき正方形を連接したる如き一枚の紙あり之を切りて此形と等しきもの四個を作るべし但四個共同積なるべし。

縮圖並に郭大圖を作る法。

原圖より縮小したる圖を縮圖といひ放大したる圖を廓大圖といひます。 其大といひ小といふは積に付いていふではなく長さと巾に關していふ辞です。 たとへば二寸方の正方形に對し一寸方の正方形をば二分の一の縮圖と申しますが面積よりいふときは四分の一です。 さて正方形又は長方形の如き一定したる形狀のものは縮圖するにも廓大圖を作るも譯がありません。 たとへば、

(七)巾三寸長四寸の長方形を書き更に其三分一の縮圖を書けとの問題に於ては算用上で求むることが出來ましやうか。

(八)巾三寸長四寸の長方形を書き更に其三分一の縮圖を書けとの問題では算用上で縮圖の邊の長を求めますと厘毛の奇零が出來て曲尺を用ゐても精密に測ることが出來ません。 かやうな場合でも別に畫學上の工夫が必要です。

已に御承知の通り正方形内へ一對角線を引くと二個の等しき三角形が出來ます。 今二寸方の正方形を書き之を四個の等しき正方形に分割しますとき其各々二分一の縮圖でしやう。 そして小正方形の二邊は大正方形の二邊と重りて居ります、又大正方形の中へ對角線を引きますと小正方形の對角線と重りまして小正方形内の三角形も大三角形の二分一の縮圖に當ります。 その重らぬ二邊も各大正方形の邊と並でをります。 かやうに並んだ線は何處まで引のばしても出會ふことありません。 かやうな關係を持ちたる線を平行線と申します。 此說明によりて次の問題をも。

（九）二寸方の正方形を書き其形内へ其四分三の縮圖を書き得るか。

長方形の中に一對角線を引くと二箇の等しき三角形となりますから第八の問題も前例によりて書くことが出來ましやう。

序にお話しいたします人物又は風景の圖などは自在書に熟練せずば縮圖することも出來ませんが大畧の圖取をするには初心の人でも出來る簡便な方法があります。それは前に述べました縮圖法を用ゐるのです。たとへば寫眞の郭大圖を書かんには寫すべき紙に數十個の等しき正方形を碁盤目形に鉛筆にて淡く抹き、又寫眞の上へは同數の正方形を碁盤目形に書き（原圖を汚さゞらんと欲せば薄紙に書きて被せてもよし）其上にて兩方の碁盤目を目合せてそれより後は御工夫次第です。

又風景を直に寫すにも初心の人は此方法を用ゐ寫すべき紙に正方形の碁盤目を盛り又板紙に方形又圓形の大なる穴を穿ち絲を以て穴の中に碁盤目を作り之を正面に直立し其穴より見得る景色を寫すのです。

「世の中に正直な人があらうとは私には決して信仰は出來ません」と或人が云いたるとき「いかにも一人で世界中の人を知るのはとても出來ますまいがしかし自分一人を知ることは誰にも出來ますからねエ」と他の人が答ました。

雜纂

日本古代男女裝束（承前）

表着第二初夏の部

（イ）松重の表着（藤重の衣を着た時）。

（ロ）紅の表着（卯花の衣を着た時）。

表着第三端午から秋までの部

（イ）紅の表着（薄蘇芳の一重襲を着た時）。

（ロ）蘇芳の表着（菖蒲の一重襲、又は撫子の一重襲を着た時）。

（ハ）女郎花の表着（萩の一重襲、二藍の一重襲、又は蘇芳の一重襲を着た時）。

（ニ）白き表着（花橘の一重襲、又は葡萄染の一重襲を着た時）。

（ホ）濃蘇芳の表着（薄蘇芳の一重襲を着た時）。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(へ)二藍の表着(紅の一重襲を着た時)。

表着第四十月から五節までの部

(イ)黄菊の表着(白菊の衣を着た時)。

(ロ)白き表着(黄菊の衣を着た時)。

(ハ)松重の表着(うつろひ菊の衣を着た時)。

(ニ)蘇芳の表着(黄紅葉の衣を着た時)。

(ホ)紅の表着(蛙手紅葉の衣を着た時)。

(ヘ)葡萄染の表着(櫨紅葉の衣を着た時)。

○衣第一春冬の部

(イ)皆紅の衣(すべて紅)―(ロ)紅匂の衣(上が紅。下が薄紅)―(ハ)紅の薄樣(上が紅。下が白)―(ニ)梅の衣(表が白。裏が蘇芳)―(ホ)莟紅梅(表が紅梅。裏が蘇芳)―(ヘ)紅梅匂(上が紅梅。下が薄紅梅)―(ト)裏まさりの紅梅(表が紅梅。裏が紅)―(チ)やなぎ(表が白。裏が青)―(リ)櫻がさね(表が白。裏が赤)―(ヌ)樺ざくら(表が蘇芳。裏が紅花)―(ル)櫻萌黄(表が萌黄。裏が紅花)―(ヲ)櫻の衣(表が白。裏が紅花)―(ワ)花山吹(表が薄朽葉。裏が黄)―(カ)山吹匂(上が山吹。下が黄)―(ヨ)裏山吹(表が黄。裏が紅)―(タ)紅躑躅(裏が紅)―(レ)つゝじ(表が蘇芳。裏が青)―(ソ)松がさね(表が青。裏が紫)―(ツ)白薄樣(上下ともに白)―(ネ)藤がさね(表が薄紫。裏が青)―葡萄染(表が蘇芳。裏が花田)

○衣第二初夏の部

(イ)藤がさね(表が薄紫。裏が青)―(ロ)卯花(柳と同樣)。

〔未完〕

足袋の沿革。

往古は革踏皮とて足袋は一切鹿の革でした。そして婦人は紫色の革踏皮を晴がましい時に穿きましたので、現に西鶴の織留などにも「紫の革足袋に花をやりしに」などとあります。それのち消防夫が出來、遂に是等が革羽織を着るやうに爲りましたので、革の直が俄に上り、丁度その頃また木綿がやうやく世間に廣く用ゐられて來たのを幸ひ、やうやく世間で革足袋を廢し、木綿或は絹足袋を用ゐるやうに爲りました。そして「たび」の名稱は「踏皮」の音「タウビ」の訛りで、「足袋」とは義から推した後世の字です。

十二ヶ月和名の意味。

是はあまり珍らしくも有ませんが、御存じの無い方も有ま

しやうと存じて、奥義抄に載せてあるまゝを出します。

一月。和名　睦月。「たがき、いやしき往來たるゆゑむつみ月といふを略せり」。

二月。和名　衣更着。「此月餘寒さげしくて更に衣を着ればきぬさらぎといふを略せり」。

三月。和名　彌生。「風雨あらたまりて草木いよ／＼生ふるゆゑにいやおひ月といふを略せり」。

四月。和名　卯月。「卯の花さかりに開くるゆゑに卯の花月といふを略せり」。

五月。和名　早月。「田を植うる月なれば早苗月といふを略せり」。

六月。和名　水無月。「雨ふりがたく水なし月といふ事なり」。

七月。和名　文月。「七夕に文をかさたてひらくゆゑふみ月とも又ひろげ月とも言ふ」。

八月。和名　葉月。「木の葉もみちて落るゆゑに葉落月を略せるなり」。

九月。和名　長月。「夜やう／＼長きゆゑに夜長月といふを略せり」。

十月。和名　神無月。「もろ／＼の神出雲の國に行きてこと國神なきゆゑにかみな月といふ」。

十一月。和名　霜月。「霜ふり月を略せるなり」。

十二月。和名　師走。「むかしさ此月諸家に佛名を行ひて導師ひまなくはしり行くなれバ師走り月といふを略せり」。

獨逸のある理學博士の言へるやう「婦人の聲と男子の聲よりも電話機に適當するものあり何せなれバ電話機にて至高音最も適當なれハなり」と。

世界中に人間ハ一分間に平均六十七人死にて其かわり一分間に七十人生れ差引たッた三人宛一分間に増しますが一年に積もれば百二十万つゝ毎年増加を割です。

批評

學海居士里見八犬傳批評の批評第二

曲は成氏に在つて信乃に無いさの趣ハ既に前ゟも述へましたが、しかし幾分か信乃に怠慢の處も無いでハ無いでもから此一段に於てハ依田氏の批評を正當の物さ認め、其餘額藏など自餘の八犬士が疎虞の過失に陷つたものさ見做しても多分ハ差支もありますまいが（細事なば省いて）第四條の批評に至つてははなハだ酷に過ぎた廉が有るやうです。

第四條の批評を冷談に評をればほさんご批評の正鵠を誤つて居る物とよりは昔

ふ言葉が有ません。　そこで更に前へ立戻り、總評の諸言を通讀して見ますと、其中にはたゞ文法や妙處を正當に點破するのが批評の最上なる物と信ずる傾が有りまして、尚その外に批評の基礎たる肝心な物のあるのをば全く看過して有ります。實に原作者の隱微を點破するのハ疑も無く批評者の義務です。　が、その批評を行ふにハそも〳〵土臺を何に取ります。　其時代に相應の輿論を標準とするのでしやう。　もし左樣爲ますまいか。　後世の輿論て斟酌する處なく前世の物を評すれば釋迦も今日の哲學の一書生ゟ劣りましやう、孔子も今日の道德家の一僕ゟも負けましやう。　それも後生の輿論に因て評するに於て幾分か斟酌をして爲るのなら兎角仕方も無いことですが、この第四の評の樣に嚴重に評してハ何の事も無くなつて仕舞ひます。

「理義を論ずるに審にして心情を叙するに疎なり」、是一句を根抵として依田氏ハ信乃と濱路との間が無味に過ぐると言ハれますけれど、馬琴翁が此邊を作る頃ゟはかの所謂京傳流の洒落本や爲永派の人情本が而も勸懲に辭を托し、情態に迹を設け、うたゝ淫猥の色彩を專として世に現れて居ましたので、それを見て心から嫉むのあまり、遂に自作の小說には其點に於て及ぶだけ、時代の眼が許すだけの清潔を加へたのです。　なる程今日の論で言へばこの才艷二人の間の情交は宛然鮨の酢漬たゞ清楚として居るのみて幾許か故さらに人情を枉げた件が無くも有ませんが、しかし時流の風習の反對に屹立して是程の處置を施した其勇氣ハそも〳〵如何でしやう。　兎角嚴正なる儒教の主義を用ゐたゆゑ、生木を裂く無情の形跡が見えて居るの、又ハ八人の大士が互に全等な人間らしいのと言ふ說ハ依田氏が新發明の評でもありません。　それを事々しく斯う評し出されたので見ると、彼依田氏の批評は此點に於てハ唯其處にのみ拘泥して基礎も更に定まらず、そして時世の風潮を數に入れなかつた處の評です。　英國で「みるとん」と言へばあれほどな詩人の大家でしやう。　しかしその詩を評するには其時世の風潮をも參考しなければ出來ますまい。　なぜです。　それハ「みるとん」はあのとほり政治上に關して莫大の意見を持つて居ましたから從つて其詩に於ても色々な變化が出て居るからです。　其處へ注目するのが批評の眼目だと記者は思ひます。

此段ゟ於て細密な箇條ゟハ一々申したい事も有ますが、徒に繁雜になるのを恐れて故さらに深くハ述べません。　たゞ一言依田氏の批評の批評を與へれば「十歲の少女に向つて子の無いのや、普通の人情の具はらぬのを罵る評」です。

みなれざを

和田のさちみ氏譯、ならびに發行、定價金二十五錢。

此書に就て記者が第一の不滿足は例の「ゆにちい、おふ、すたいる」(文體の一致)でそれは譯者其人も既に御注意の有つたやうに其自序にも見えて居ますが、それと知りつゝ何故に文格の一致を破られたのです。　既に世に出すからは「調度の底」に置く物とは品が違ひます。かつゝのは如何にも心得難い事です。

或は譯者は色々の文章を書く力の有るのを御見せなさらうとの御心でわざと「文格の一致」を破られたなら、記者は直さま、失禮ながらも甲斐はあるまいと評します。　僅に語句の練れて居る處は最後の謠曲體の文のみ、其外には「何とうたてき限りにては候ハぬか」など實に譯者が所謂鵺文の痕は數へ上げれば隨分有ります。

ならば謠曲體の文は巧妙かと、もし記者に問ふ人が有りますなら、記者は之に對つて「比較して」の一語を申しましやう。　是ぞと言つて價値の有る句は更に一つも有りません。

次に譯者は一度「ゑエーくすぴイあ」の此戲曲と譯んで諳記のまゝ書成されたさうです。(序文で見ると)して見ると譯者は彼の英國にて有名なる「ちやアれす、らむ」の文才を其儘御持ちなさつて居ることと、小野篁が白樂天の詩才を持つて居るのと仝樣です。　何故といへば、譯者の文は「ちやアれす、らむ」の間接體が些し直接

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

體になつたばゝりでもから。

記者が此書に就て評をる文は是ばかりでも。　が、此書を概評をれば譯者が「和文の教育を受けて居られるだけの甲斐は有まも」(假名遣は例外)。

一喜一憂捨小舟

女學雜誌社員石橋忍月氏著、大倉神戸二書房發兌、定價金三十八錢。

まづ近頃珍らしい出色の作でも。　阿光さいふ、憐れむべき少女の身の上に關をる悲歎物で、そして種類は世話物でも。　久松子爵の序は有益な序で、それで又全篇ハ春のや主人が校閲された趣でも。　が、彼是看過し難い結構上と修辭上との誤譯が有るのハ如何なものでも。　つまり大家の校閲を經たと云ふ事ハ「少なくも」其書の信用を保證して求める譯で、それで無くてハ校閲の甲斐はありまをまい。　處が。此書には其邊の加減が更に見えません。　まづ是から數へ擧げて見ましやう。

第四十三丁第二行、「不勝々々に車を履つて(と言ひ乍ら香掛の茶碗をひつくり返し、北野の羽織を少し濡も)是ハ失敬御免なさいと一飛サ」とある、此(　)の中の文句は故さらに奇を好過きた事實でハ有ませんか。　なる程之を活用して後の「失敬御免なさい」を出して有るから其邊は看過しても宜いと云ふ人も有ましやうが、しかし此樣な處には是句が有つて一層の快味を添へるといふ譯ハなく、言はゞ無い方が宜いのでを

第五十一丁に阿光と三郎との問答が有り升が、　如何にも阿光の語氣はわが心中の炎情を陽に現して居まも。　是でハ處女とハ見えません、否さ、處女が現在の兄と問答をる体とハ見えません、　おなじ寄宿舍に居て起居を共にして居る女生徒同士の間の口吻でも。

第六十七丁第三行、「あなたはまづいと思召してもわたくしハ(と少し小さな聲)」。　此「わたくしハ」が有つてハたさひそれが小聲でもまだ處女らしい處が見えません。　「思召しても」で切つて御覽なさい……如何でしやう

又その第十二丁、「それぢやあなたハ私しを他人と思しめさないの」。　是が前と同樣想像上の事實、處女の語氣にしてハ餅掛屋の天秤棒、をこし洒落れゝば力を入過ぎた唧筒、も一つ洒落れゝば頼ド出した茶でも

江澤に助けられて高利かしに金子を返した時、　左衛門の體の言方もごんなものでしやう、記者の思ふにはあれでハまだ些……

淺草花屋敷で甲乙二人の者が談して居る處ハその滑稽があまり浮過ぎて非常な不快を感させまそ。　そして甲の口吻に「月世界」などの語のあるは御人柄ちと似合はぬ高尚な語氣でも。

第百三十四丁、二行に「見い」などゝあるのハ西國体でハ有ませんか。

第百六十二丁の「渦代」……これハ「渦錢」となるへき處でも。　又此邊の應答にAＢの符號を用ゐられたのハ……

其外、第四丁「今朝來ましたさの顔附したる日々新聞」、　第六丁、傘の骨の數を目算することと、高利貸が責に來る處、第百二十九丁金藏と母との問答の邊、凡ての數ヶ處は何となく推敲が缺けて居まも。

猶其上是そと言ふて巧妙な句もありません。

惡い處ハ是等でもが、　しかし獨語ゝら意中を點破をる處と阿菊といふ少女の語氣などハ中々面白く出來て居まも、　或は此小說ハむしろ心理學甚同樣の有樣に傾いて居はせぬかとの掛念も有りまもが、　その脚色中才子病死の一段ハ非常な上出來でも。　現に角之を全体から評すれば中々の御著述でも

月報

●女醫者　女子は穀つぶしなり社會の厄介者なりとは近頃迄西洋諸國にても云ひはやしたる格言なりしが近頃歐米諸國にて女子は追々各々其職業を得るに至りし故隨て地位も高まりたるが此にいとも感をべきは現今合衆國ニユーヨークに女子

にして醫者なる者百六十餘人ありて其中六人は一万圓以上の歳入あるよし。女子の高尙なる專門學に從事せんとは記者の日本のため又淑女諸君のため望まざる處なるが獨り醫術と教育學とは其高尙なるにも拘らずよく女子の眞性に適せるのみならず女子の醫者と教育學は社會のため極めて必要のものにして又女子の地位を高むる最もよき職業なれば記者は一には日本のため一には諸君のため女醫の我國にも輩出せんとを切望をるになん。

●成立學舍女子部　昨年四年文學士中原貞七氏が神田駿河臺に設立せられ爾後日を追て盛大に赴く同部は本月一日一箇年の祝宴を開き淑女紳士等を招待し諸大家の演說等ありて來賓の就くべき席もなきほどの盛宴なりし、因に云ふ同部は目下女生徒の數二百餘名に達したるが今度一層擴張せられ高等科、高等師範學科、幼年科を設き生徒をも募集せらるゝ由とハ社員の歸りての披露。

●女子教育奬勵會　は土方子爵其他の發起になり近日開校の運に至るべきよしにて英國より聘したる七名の教師ハ既に來着したり、聞く所によれば七名とも有名なる人々にて然も其執る所ハ至極着實にして我國人の日本の美風を捨てゝ無暗に外國風を摸倣をるを歎ぜらるゝよしなれば此の會の日本第一の女子教育所となるハ疑もなきとなるべし。

●美術學校　前號に御評判致したる同校ハ三四月頃には開校すべき噂なりしが九月ならでハ其手運びに至らざるよし。

●子守學校　貧困なる爲教育を受くべき年齡に達しても大切なる時日を子守奉公に費すを憫み、子守の傍に最も手近なる學業を授けんとて府下荏原郡數ヶ村の有志者が發起して義捐金を醵集し幼稚園と小學校を兼たる子守教育學校を設立する由、子供の爲子守の爲め至極幸なとにてそ。

●育院慈善會　一年一度開會する同會ハ來る四月廿日より三日間上野公園地內華族會舘にて開會せらるゝ由、昨年は陳列品の賣捌方あしかりしが今年は時好に適し且つ種類の異りたる者を出品し且つ賣捌方を貴夫人令孃方に依賴したる由なれば時節はよし建物ハよし眺望もよければ定めて賑ふなるべし、因に云ふ同會員の義務は三圓以上の品を出品するか金三圓以上を寄附をるかの二の內一なる由。

●薔薇の陳列　吉田彥二郎氏は薔薇の培養にハ餘程巧者なる由なるが明日より八十五種の奇品を芝公園九十號ェ陳列して縱覽せしむる由。

●大津婦人慈善會　去月廿四日例會を開き爾後は近江婦人慈善會と改名し各郡に役員を置き益々擴張せらるゝよしにて會頭にハ中井夫人副會頭には園田夫人撰擧されたる由。

●女子部設置　福島縣尋常師範學校にては女子部を設置せられ本月より始業せらるゝ筈の由。

●岡山女子手藝展覽會　本月下旬岡城內天主閣にて女子の手になる一切の細工物の展覽會を開く由。

●小學生徒の貯金　石川縣金澤區女兒小學校にては別に實業科を設け編物を教授せしに近來は餘程上達したる故世間に賣捌く事としたるに物がよくて直段が廉なる故大に好評を博し利潤をも見るに至りしが利益ハ生徒の貯金になしたく由至極面白き新案になん。

●日本婦人洋裝廢止案　日本婦女が自國固有の美裝を捨てゝ窮屈なる洋服を好むに付外人の中にも太く之れを非難をるものある由は淑女諸君も既に聞所なるが近着の米國新聞に依れば前日本京都女學校教師パルマーリー孃は日本の婦女が洋服を着をるに付きて種々の弊害あるとを說き之を廢せしめんとの旨趣にてクリーブランド夫人。ガーフヰルド夫人。パルメル夫人。費府ウエル大學校長スミス夫人及びウヰラード孃等の記名調印をも受けたる勸告書を贈り之を日本の新聞紙に掲載せしむる由。

この號からは御笑ひ草が各欄の終にはいりました。圖樂の餘波は今度は御預りに致しまそ。

●ダイヤモンド　橫濱外國某商店の話によれば日本にてはダイヤモンドの需要去年の着以來日に月に增加して昨今にては月々三万圓以上賣捌け尙々增加する景況の由、奇態な事には西洋にてハ小くとも品質よき者を尊びその價も貴きが日本にては品質はあしくとも容の大なる者を好み小な者ハ西洋より廉にて大なる者ハ高直の由なにしろ月三万圓とは日本の今日にはチト……

出來ないのです、ゞから低き地面だとて必ぞ多きよ限らず高き地面だとて少いとは限りません濕てゐる所よ多いのです。日本ふは脚氣病が澤山ありますが一体此病ハ瘧とよく似た者よて瘧の多い處よハ脚氣も多いのです。脚氣や瘧を少なくするとゝ大切な事でそか地面を乾かす工夫が何より大事よて是さへ出來れバ病根ハ追々絕つとか出來ます。

肺病と土地　肺病も近頃迄ハ土地よ關しないと思て居ましたが大變土地と關係あるものよて粘土ハ絕えず水を含んでゐるもので粘土の土地よハ何處でも肺病が多くあります。然るふ乾き易き砂地よハ肺病ハ至て少いからやはり肺病も濕地よ多いのでムいます。土地ハかやうよ人間と大切の關係を持てゐますから住居を定むるよハ餘程注意しなくてハいけません。

濕地と乾た地　衛生上よ有害なるは極めて乾きたる土地又は極めて濕勝なる塲所でなくて却て中位の處であるとハ前〻申しました通りですが矢張濕り過ぎて害なきよりは乾きて害なき方衛生上望ましきとでそ。家の近傍よ溜池などのあるは速よ埋めなければなりません。けれども池を塡むるよハ大抵水のある上よ土を投げ入れて塡むるとでありまそが池水の中よハ多くの汚物を溶し又水底よも毒物が沈澱て居りまそからかやうなる塡方よてハ跡〻大害を遺します。だから最初よ汚水を干し汚物を去り其上よて塡めなければなりません。又濕地よはよく水氣を吸取る草木即ち柳、向日葵、唐花草の類を植付けて土地を乾かす工夫をそるとが肝要でそ。

溝の害　溝は惡水雨水共よ漏れない様よ拵へなければなりません土地が奇麗なれバ井水も隨て奇麗よなり流行疾の跡を絕つ様よなりまそ雨水の地中よ浸込むとは甚だ速なものです。そして地中よは炭酸瓦斯がありまそが浸込みたる雨水は此炭酸と混じます、炭酸の混ㇳたる水は雨水よ溶けぬものをも溶かす力を持て居りまそ。だから土地が不潔であれバこゝを通り過ぎる雨水は其不潔物を溶して地底よ入りて井水よ混ㇳまそ。そこで土地は成丈奇麗よせねバなりませんが土地を不潔よそるものが澤山ありまそ。

芥溜　先第一は芥溜ですがあらゆる不潔物の捨塲でそから迂濶ふゝなりません市中よ見受けまそる芥溜ゝ皆底無しでそから不潔物ゝ地中よ浸込みて井水よ混ぢまそ兎角道理を知らぬ人ゝ地を掘りて不潔物を埋けて目よ當らねバそれで濟むものと考へ居れど大きな心得違でそ。又家の脇よ空地あれバ必ず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

不潔物を此空地に捨てますが此空地も何時家を建つるやも測られずかゝる土地に建てたる家に住めバ必ず病氣が起ります。　又目下の家屋建築の方法を見るに壁土は多く河床或は池底の泥を用ゐますが前にも申しました通り泥中には幾何の不潔物を含み居るかも知れません隨分衛生上大害がありますからこれは改めなければなりません

（雪隱）次に雪隱の拵方でありますが國々によりて甚しき差があります今に路上に屎尿を覆す處もあり唯地に穴を掘りて用を足すもあり又我國の如く甕又は桶を埋けるあり西洋の都市の如く大管又は大土樋を伏せて全市の家々に引きたる小管より流れ出る汚物を引浚へて海上に至りて之を捨つる工夫をしたる處もあります。　かやうに屎尿の始末に差等のありますのも文明の差等より起る譯で開けぬ人民ほど疎末にいたしますは不淨物の人體に大害あることを知らぬからです。　卑陋なお話ですが男女老少おしなべて一年間平均一人前目方に積りて大便九貫目小便百十四貫目宛假に東京市中の人數百萬人と定むれバ大便九百萬貫目小便壹億千四百萬貫目といふ大した數になりますさてその扱方を見まするに桶か甕で之を受けますが元來屎尿は物を腐敗せる力を持て居りますから桶は勿論のこと腐蝕して日を經れども漏ります然るに土又は幾分か自分で自分を消毒する性があります即毒物は化學では複雜たる組立のものですがこれを單純のものに變する力があります。　けれども此力は甚弱きものゆゑ一向賴りにはなりません。　ですから東京位人家の稠密だ處ては西洋の都府の如き排洩法を行ハねバなりません。

（死体の片付様）次ハ死體の片付方でありますが宗旨によりても火葬にいたしますが大抵ハ土葬でそこれハ甚不安心なもので棺ハ久しからそして朽ち死體の穢物ハ雨水に溶けて井水に混しますこの日々死ぬ人を一々地に葬りましてハ其害想ひやられます。　でそうら死體ハ火葬にして空中に發散させるのが衛生上最良の方法てす傳染病患者の死体ハ尚更でそ。　しかしながら如何に亡骸なれバとて昨日まで父や母やとかしづきしものを北邙の煙と散せしむるハ孝子の心として忍びぬことですから土葬の害ハ强ち右之通り醫者がいふ程でないといふことを試にお話いたしませう。　さて死體が腐りますれバ一種の瓦斯を發散いたしますから墓地の空氣ハ定て有害だらうといふにさうでない一向混じて居りません。　それでは墓地の井戸ハ如何といふに俗說にも墓地の井水ハ却て清潔ぢと申します

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

が化學者の調にも有害でハありません又墓場の土を取て試驗いたしまするに人家稠密なる町の敷地にくらぶれも却て清潔です。　してみると土葬も左程恐るゝにも足りませんしかし埋け樣に注意しなけれハならぬとがあります世間でハ何れ腐敗るものなら早く土に化れと申して薄片な棺を左も無雜作に埋けますが大きな心得違で腐敗物も永き日數を掛ける程害が少うムいます百も千も埋けた死體か僅の間に腐ッては其近所の者のため大變です。　それでなるたけ腐敗を遲くする樣にせねはなりません始終水に浸されたるか又は始終乾きたる木は腐敗いたしませんか乾いたり濡れたりする時は速かに腐敗いたし升と前に申しました通り地底には水かありまして雨多き時と少き時によりて地面より水面に至る深さに差が出來ますそれで棺を埋めますには雨多き時の水面より少くも一尺五寸の隔りかなくてはなりません。　つまり雨が澤山降まして も其棺は地水に逢はぬやうな所へ埋けなければなりません。

氣候

太陽　すべて時候の寒暖は太陽に關係するもので日光が眞直に當る處は暖く斜に當る處は寒く赤道直下に當る地も何時も日光を眞直に受けますから熱く南北兩極は常時斜に受けますから寒くて年中氷が解けません。　土地によりて寒暖の差は甚しいもので赤道直下では一年中平均攝氏の寒暖計二十六度ですがアメリカ洲のメルヴィルと申す島では零度より下ると十八度です。　併し氣候は唯土地の位置とかりでなく海、湖の有無、土地の高低、山の向背森林の有無、風の方向等によりて變るものです。

水　さて水も日光を受けても暖まり樣ゟ地面よりは遲れから冷え方もまた遲うムいます、それで湖水の畔に行けは暖く感ぞるとはストーブに近寄ると同じやうです。　又海邊は山國よりも暖く英吉利日本の如きは割合に暖です。　又ノルウエーといふ極北方の國も餘り寒くはありません。　これは大洋中に潮の流ありて赤道直下より暖なる水を押し來りて一旦アメリカの東岸に突當りそれより東北に流れ英國、ノルウエー國の岸を掠て北極に行きますから土地ハ隨分北偏の國ですけれども氣候ハ割合に暖てす。　日本にも東の海岸を沿ふて俗に黑潮川といふ潮流かありますそれで日本も割合に暖い國柄です。

土地　土地の高低ハ氣候に影響あると夥しく其變化もまた遽です赤道直下にて南アメリカ洲にアンチザナと申す火山かあ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りますが高さハ海面より直立一万三千尺もあります麓でハ裸體でも暮し兼ねますが頂上ハ露西亞の聖彼得堡といふ都と同じ位の氣候で隨分寒さが酷うムいます。　大抵直立五百十尺即大凡一町半上る毎に攝氏の寒暖計が一度宛下ります

森林　森林もまた氣候に關係があります密林ハ日光を透しませんから夏ハ冷しく冬ハ暖に夜分も割合に暖です。　かやうの地にハあまり惡疫か流行いたしません。　森の少き所に惡疫ハ多ひものです

風　風は隨分遠方より吹來るもので歐羅巴の南部の暖なるは亞弗利加の沙漠の熱風地中海を渡りて來るからです。　また北部の寒さハ北氷洋より吹來る寒風の爲です。　日本にても北陸山陰の寒さハ露西亞地方より寒風の來るが爲、又南海西海の暖なるハ熱帶地方より來る南風常に吹くからです。　海邊の地にハ晝間風ハ海より陸地に吹き夜に入りて朝まで陸地より海の方へ吹くものです。　又山では晝間は麓より頂上に吹上げ夜間は頂上より吹下します。

山　山の有無によりて氣候に寒暖の差があります北に山を負ひたる土地は寒き北風を直に受けませんから暖です。

雨　歐羅巴洲にては西風又ハ西南風の吹くときは雨を催します。　秋より冬の間は歐羅巴の西部に雨多く夏には東部に雨か多く降ります赤道直下にては半年は雨多く半年は雨なし日本にても梅雨は全く風の爲です。

動植物　氣候の寒暖は以上述べました原因より起りますが是より少々氣候より他の物に及ぼす影響を述べましやう。　氣候ハ草木禽獸に影響を及ぼすこと多く竹類の日本支那等に產して西洋諸國に產せず椰樹の寒國に生せざる海豹の熱帶の海に入りませぬは全く氣候の爲です。

人　唯禽獸草木ばかりでなく氣候ハよく人間を賢とならしめ又愚とならしむるものです何故なれハ暖國にてハ食物は耕さずとも十分にあり衣服を調ふる必用もムいませんから自然と懶惰になります。　之に反し寒國でハ食物も耕さゞれバ得ると能はず又衣服の心配もムいますから自然と慧敏になります。　暖國にては人の生長最速にして八歲位にて已に婚嫁するそうです。　そこで壽命も隨て短うムれます。　けれども又極寒の國にてハ人間が生長しきません身材も少く腦髓も隨て發達いたしませんから年を經ても野蠻の境界を免るゝとが出來ません。　日本の如きは中位の氣候で誠に仕合な國柄です日本人の智慧逞しと申すも全く氣候のお蔭でムいま

す。　英吉利、佛蘭斯、獨逸の如きも人間の生活に最都合よき氣候の國です。　それで國の文野は氣候に關係するとか明にて文明の中心ともなるべき處は必ず氣候の最も好き處です。　然し全體の氣候は良くても日々の天氣はまたちがひますもので獨逸などでは日本の如く天氣の良き日が甚稀でムります。

氣候と病氣の關係　病氣と氣候とは直接の關係がある者にて血の下る赤痢や、御承知のコレラや、今こそなくてもアメリカの堀割が成功れば直に横濱あたりへ舶來する黄熱病は熱帶地方に多く、オコリは北方（北緯六十度以北）には殆どありません。そして北では氣候が寒いから肺病などが澤山ありまして南の熱い地方には少く。つまり熱い地方には消化機病（即ち胃や腸や肝臟病）が多く、寒い地方には呼吸機病（即ち肺や氣管支や咽喉病）が多いのです。　日本は夏は隨分熱く冬は隨分寒いから暑中には消化機病が流行し、冬は呼吸機病が流行します、

氣候の善惡　沼や澤のある地で常に有害物を氣中にだす地方や夏冬及び晝夜の寒暖の差違がひどく且つ急劇い地方は極く健康上いけません。一体氣候は知らず〳〵段々變遷るのが人間に大切なのです。　沼や澤などがなく乾燥いた地は至極よろしい。そして土地が乾燥な上に寒い北風のあてぬ日あたりの善き氣候の變遷の急劇くない處が一番よろしうムいます。

他國に行く人の心得　氣候が急劇かに變るのは至極よろしくないから熱い國から寒い國へ行き、寒い氣候に慣れた人が熱い國へ行くのはよくありません。けれども人間には奇態な能力がありて永く住み慣れた氣候と引越し先の氣候と非常に違はなければ段々新氣候に慣れます。　然し、あまり違ふと慣るより先に死にます。　英國から印度に送る兵隊も死人が多くありましたが三年目に交代る樣にありましてから死人の數がへりました兵隊は少い方ですが婦人や五歳以下の小供は多分に死にます。　けれど故郷より寒い國に移るは熱き氣候に移るより害は少いです。　我々が北海道へ移る位は平氣のものです。他國に行くには行くべき時期がありて熱い國に行くには其國の冬に當るとき行がよく。寒い國に行くには其國の夏のとき行が良しうムります。　そして尤も必要なとは故郷の攝生法を捨て〻移住先の衣食住を用ゐなくしてはいけません。衣食住は永い經驗を積で其國に適した者が出來たのですから其國に住ふには其國の攝生法が一番よいのです。　だから日本人が何から何まで西洋の眞似をして西洋館を立たり洋服を着

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

たりムヤミニ西洋料理を食べたりするのは間違ています。日本には日本固有の攝生法があります。ですから西洋の眞似をするなら良く氣をつけて西洋のよき所のみを採つて誤まらぬやうせねばなりません。

住處。

古來の住處 吾々の先祖は住處を定るに衛生上の事は少しも考へず只生活に必要な物品を得安く運輸に便利な處を撰みて江、湖、河、川の近傍や海濱に住處を開き、少しも土地の卑いことや濕てることや沼のあることには頓着しませんでしたから健康の爲にはよろしくありませんから吾々子孫はこまりますけれども今更高燥な地へ東京や大坂を引越すこともできませんから適當の方法を工夫して有害物を除くほか仕方はムません。　是が即ち大都會に衛生學の必用たる譯です。

最も善き住處 新に居住地を求めるには健康に適した地を選むがよろしい。　日あたりよき、北風のあたらぬ、高燥な、水はけのよき、沼や澤のない處がよろしい。ですから山の南側の中途がよろしいです。　日本の家相でも今申た樣な處をよしとしますから家相だとて決して馬鹿にはなりません永い間の經驗から考へ出した者ですから一々感心することがありますがそれ説明には理屈の違た事が澤山ありますから無暗に信仰してはいけません。　段々開化して來ますと都會には諸國から人が集つて來ます。隨て地代も高直になるから横に家を廣けずに上の方へ高くして二階三階四階五階六階七階八階を立てます。するとが大變なことになりまそ。又地代か高から庭も狹くなり、人は澤山なるし、便所は澤山にあり、掃溜には澤山物を捨るから空氣も地面も不潔になるから、人々はわるい空氣を吸ひ不潔な水を呑みます。そして傳染病が喜びて躍り出ます。　人の死ぬ數を調べると狹い處に澤山居る處は死人多く廣い處に僅の人が住ふ處は皆長生をします。　これには色々の源因もありますが最も主な源因は空氣が悪るいからです。

家屋の建方 衛生の方から申すと家を建てるには色々六かしいことがありますが其内御承知になりてよいことは風をよける樣に、日あたりのよい樣に、北を塞いで南を開く樣に建てることです。　然し少し寒い國で人家の稠密る處では通常往來を南北に通し家の入口は東か西につけるがよい。　すると光線も熱もよく這入ります。　尤も寒い國では往來を東西に通し家の北の方は塞いで南ばかしあけて置くがよい。　又熱い國では東西よりくる朝日夕日を避ける樣南か北に向けて建てるがよいで

す。　日本の家相でやはり前の樣なことを申ます。

病氣の住處　さて前に人が澤山居る處に傳染病が多と申ましたが總て貧乏人の多い、人の澤山居る處に傳染病は多いです。ですから金持が金を出して衞生の道理に適た貸家を建て貧乏人に貸して不潔にならぬ樣、人のあまり集らぬ樣にするのが肝心です、西洋には現に此法が行はれます。

水は傳染病の源因　人の一日もなくてならぬ者は水です。　人が澤山居て地面の不潔になると井戸の水が不潔になる。不潔の水は諸病特に傳染病の源因です。　水の用は飲水と用水の二にて世間の人は飲水は隨分注意しますが用水は洗濯や洗ひ水や風呂などに用ゐるのだからどんなでもよいと心得ますが大層な勘辨違で用水の不潔な爲めコレラなどが流行することがよくありまそ。　傳染病は胃から傳染ることもありまた肺からもうつります。　飲水の中に病毒がありて、それを呑みて傳染するのが胃からうつるので、空氣中に飛散てゐるバチルレン虫を吸ひ込で傳染するのが肺からうつるのです。　バチルレン虫などのゐる不潔な水で柱、敷居、鴨居、机、床などを拭くと丁度病毒を塗てあるくと同しことで濕てゐる間は虫は飛びませぬが乾けば直ぐ飛びだして空氣に混ります。之を鼻から吸ひ込み、肺から體中に這入りてそこで流行病などに罹るのです。　だから飲水ばかりでなく用水も清潔でなくてはいけません。　ですが困ることには世間ではこれは惡い水だから用水にしやうと申ますが皆さんは清潔な水を御用なさい。

水の善惡　通例人は目で判斷しますが一體あやしい話です。目に清潔に見え呑で味のよい水でも惡いのがあります。　又目で見てこれは呑めぬと云ふ水でもよい水があります。　けれども概して申せば目と口で判斷ができます。目で見て透明って、色もなく、香もなく、呑で味のよいのが上等の水です。濁てゐて、香がありて、いやな味のあるのは惡い水です。　序に一寸清水でもよいに限らぬ證據を申ましやう。　二口蟲とて腹內に這入てわるい事をする虫がありますが此虫の卵は長さが一尺ノ十萬分ノ三十九ほどの小な卵ですが澤山あると目に見えますから目はあてになる樣ですが、もう眞田蟲の卵は前の卵より小いから見えません。　ですから清き水を飲だつもりで中にさなだむしの卵がゐたかもしれません。

飲用に適したる水　水の溫度は深さに關係するものにて最熱き赤道直下の海にては表面は攝氏二十八度の高溫度ですが中程は十六度底に至りては僅四度の低溫度となります。　人間の飲用

水は何程の温度のものを適當とするやといふに體温は前にも申したる通り三十七度ですから是より少々低き温度のものが適當です餘り熱きも餘り冷きも害があります極暑の時分に氷を用ゐますのは善くありません。　又飲用水には其中に空氣を含みたるものが宜うムいます即ち炭酸、窒素及び酸素を含みたるものです。　其他のアムモニアの如きものを含むときは飲用に適しません。　水の中最純粋で最清潔なるものは蒸溜水です。　素人考ではかやうな水が飲用に最適するだらうと思はれますが其實蒸溜水は少しも味なく胃中の鹽分まで吸取りますから飲用には適しません。　遠洋の航海者が航海中飲用水を用ひ盡しました時には海水を蒸溜して用ゐます。之を飲用しまする前に空中に曝し置く事が必要です。　左様いたしますと空氣が水中に含まれますから飲用に適します。

水中の毒物　硝酸といふ藥は隨分劇藥ですが此が井水の中には大概あります。　是が澤山あるならいけません又アムモニアと云ふものがあつてはなりません、あれば不良水ですから新に井水を用ゐるときは其筋の試驗を受けるのが安全です。　硝酸やアンモニアが極少量あつたとて直に害をなすといふ譯ではありません。　しかしアムモニアがある以上は其井水は不潔な地面を經過た證據ですから飲んではいけないのです。

硬水軟水　水に硬水軟水の區別があります。硬水とは其中に多量の石灰とマグネシアを溶したるものにて軟水は其極少量を溶したるものです。　シヤボンを使ふても泡十分に立たず手の皺の間に其儘に殘ることがムいます。　かやうな水は硬水です。　餘り強き硬水も軟水も不良水です強き硬水を飲用しますれば下痢を起します。　けれども飲用には軟水よりは硬水の方が寧ろ適してをります。　硬水を鐵瓶にて沸すときは鐵瓶の裏面又は口に湯垢を多く殘します。　豆、肉類を煮るに硬水を用ゐますと豆も肉も強くなります。　それで飲料には寧ろ硬水を優れりとし、煮熟洗濯には軟水を優れりといたします。

水を清潔にする法　これよりは水を清潔にするお話をいたしましやふ。　清潔法も種々ありますが概略四つです。

第一煮沸す法　此法を用ゐるときは水中のバクテリア大抵死絶ゆるが故に之を冷して用ゐれば安全の飲料です。　然るに近頃或學者の説に攝氏百二十七度の高温度にても死せざるバクテリア虫ありと云ひ現にアイスランドにて九十七度八分の熱泉中に生息する有機物ありと主張いたしますが成程強きバクテリ

廣告

春の屋主人、二葉亭大人合著

新編 浮雲　第二篇　定價金五拾錢

浮雲の一篇一たび出て從來の浮世小說顏色なしと迄に江湖の諸君子の喝采を得たる其浮雲の二篇にハ二葉亭大人が又一層の腕を振ひ新奇の工風と凝されたるに春の屋主人も力と併せ錦上に花を添られたれば面白さたぐひなし此篇に於てハ微妙の人情益々神に入り主公の性情ハ云ふも更なり他の人物の性質の如きも恰も紙上に活動せんとす其文章の如きハ依然俗文体を用ひられ共第一篇に立優りて婉曲にして且優美なり其脚色の如きハ樂の爲に畧して云ハず請ふ一本を求て小說の眞味を味ひ賜へ

結婚の枝折（一名配偶の擇び）　全壹冊　定價金卅五錢

江口高達譯述

此書ハ青年男女各々迷ふ所ありて後來を慮らず婚合をするが爲に惡結果を招き或ハ終生の不幸を受る者尠からざるを憂ひ專ら醒悟せしめんが爲にヒルドレッスの原書を江口先生が譯述せられたるものなり蓋し婚姻ハ人倫の大禮にして小にしてハ一身の禍福之に因りて定り大にしてハ一家一國の隆替亦是に淵源するものなり夫れ輕婚濫離の弊邦家を毒したるもの古來其例に乏しからず人の最も恐れ愼むべき重要の事たり今や米國その弊習最も熾んなるものあるが如く實に離婚の紛擾法廷を煩ハすもの日々に千を以て數ふるに至ると云ふ是を以て大に識者の耳目を動かし其論ずる所日として之れが源因と矯正の法とに非ざるハなし飜て我日本の現狀を察するにその流弊の源因する所素より大に彼れと其趣を異にすれども輕婚濫離の弊風又その配偶を誤り生涯不幸に沈淪する者甚だ多し此書尤も我が青年男女及その父母たる者の害毒に陷らんことを恐れその方針を示すや頗る深切なりと云ふべし亦譯述文の如きも力めて平易通俗の語を用ひいかなる婦女子と雖も讀み易く解し易からしめたれば江湖の看官一讀して此言の誣ざるを知り給へ

谷間の姫百合　第壹編　定價金五拾錢

末松謙澄、二宮熊二郎合譯

此書ハ前年英國の小說新誌に掲載して非常の好評を得歐米の諸國にて頻に飜刻出板したる人情小說の譯述にして一の貴公子が一賤女に愛着して他鄕に飄泊する所より話を起し世態人情の委曲を極め詞華文彩の能事を盡し人をして一讀卷を措く能はざらしむ而して其本旨の歸着ハ交際の禮法を明にし婚姻の愼重すべきを示すにあり譯文ハ巧に日用普通の言語を用ひ大人君子も之を讀みて樂み幼童婦女も之を聞て喜ぶ實に譯述文ありて以來の珍書なり

貴女紳士 交際の栞（一名西洋遊戯の鑑）　全一冊

山崎忠興　譯

今や洋風の交際日を追ふて盛に行はれ身中人以上に在るの士君子ハ往々夜會舞踏の筵に臨まざるを得ざるの塲合少からず然るに此交際の法ハ未だ本邦に新なるを以て時好を追ふの士君子ハ勿論舊套を守るの人と雖も之を知ざれバ大に耻を取ること尠しとせず本書は男女公會に於て坐作進退の注意より紳士貴女互に相對するの心得等に至り又舞踏の種類方法數種を擧げ丁寧詳細に書き述べたるものにして加ふるに傍訓をも附したれバ婦女子と雖も一讀忽ち交際の新法に通じ舞踏の諸法を諳するを得實に當世必讀と謂ふべし請ふ江湖の紳士貴女諸君續々愛購を賜はんことを

東京本町三丁目
金港堂　原亮三郎本店

大坂北久寶寺町
金港堂　原亮三郎支店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

婦人教會雜誌

第二號

一册金三錢一ヶ年分三拾六錢●郵税一册に付壹錢●總て前金

目次

説話〇婦人の職務(圖入)●教訓〇兼好法師つれづれ草抄記〇蓮如上人御一代聞書抄出●法話〇貴婦人會話法(つゞき)●雜説〇橘町女人講員某に贈る●婦人の心得〇姉妹に告ぐ〇女禮式●傳記杉希子の傳●家事要訓〇飯を炊ぐ水加減〇香水の製法〇鮮魚を貯ふる法等●問答〇最勝講起原の問、同答●月報數件

發行所 東京日本橋區橘町壹丁目拾壹番地 婦人教會

日本之女學

毎月壹回

定價 半ヶ年 拾錢 郵税貳錢 一ヶ年 郵税共六拾九錢 同壹圓三拾貳錢

●第七號(三月廿日)●日本之女學〇音樂歌謠論〇同族婚の弊害(坪谷水哉)婦人諸君が働くべき時機來れり(坂牧勇助)●論説〇女子の教育(宇川盛三郎)●史傳〇翠光院小傳(畵入)●禮式(婚姻禮式の事)(歩行の風儀)(朋友知己に邂逅するの禮)●工藝〇養蠶の心得〇編物手藝〇水石鹼の製法〇外數項●叢話〇皇室の御紋章〇懷中かゞみ〇貧の一燈〇赤穗義士の書〇蒸汽力利用の發明ハ既に紀元前にありし〇外數項●家政經濟〇家政學(瓜生寅)〇家内簿記法(松の舍主人)●衛生育兒〇食事の話(下)〇鐵漿涅齒の大害〇鷄卵の卵蛋と卵黃〇育兒の要〇小兒の過食を防ぐ法〇乳母の撰方〇家庭小言●修身理學〇修身雜説〇理學叢解〇海上電話器の試驗〇世界語の發明者〇未開人滅滅の原因●文苑〇早梅(近衛忠熈)外數名〇若菜(小中村清矩)外數名〇春雨(風早公紀)外數名〇待郭公(同上)〇櫻花歌(林甕臣)外數首(佛文意譯)●小説〇櫻かゞみ(水蔭亭主人)●割烹〇日本料理(九種)〇西洋料理(六種)〇支那料理(四種)●寄書〇婦德の要ハ溫良恭儉よあり(深田恒三郎)●雜報〇伊豫國松山の結婚法〇産科往診〇婦人勳章の見本〇外數件

挿畵 雛祭の圖(周延)史傳の圖(國松)小説の圖(月耕)嵐山墨水の圖(直城)

發行本局 東京日本橋區本石町三丁目 博文館

文學士天野爲之君序 經國學人中山整爾著

社會改良 女子教育新論

正價金卅錢 郵税拾錢

婦人改良の必要なる今更余輩の呶々する限りに在らす其現狀の悲しむ可く痛むへきも亦明言するを俟たさるなり蓋し世上の識者此に見るあり近來婦人改良女子教育の説を主唱するもの日一日に多きを加へ此一問題ハ實に日本の今日に最も喧しき姿とハなれり玆に經國中山整爾君の著述に係る本書ハ則ち此の急要なる婦人改良を極論したるものにして章を權利職務交際家政教育等の諸種に分ち女子教育の方針を論述したるものなり實に目下肝要の著書と謂ふ可し今般刻成る諸士幸ひに一讀して此急要なる問題の歸着する所を判せよ

賣捌 神田區西福田町一番地 誠之堂 大阪心齋橋北久太郎町 柳原喜兵衛 外各書林

女子教育論

社會 全也本基的美善之榮繁盛昌 族家 改良進歩之好妙的方法也一

白耳義 ボーリユー氏 著
日本 俣野時中氏 譯

本書ハ名聲ヲ萬國ニ博セシボ氏ノ著論ニシテ上下二篇通計七章ニ分チ且追加トシテ近世ノ碩學バスチヤ、トクウサール、ジユールシモン、エミールドラブレー等諸氏教育ノ論議ヲ抄録シ最着實ニシテ最社會ニ必要ナルモノナリ〇正價四十錢郵税十六錢

東京府牛込通寺町二十九番地 政典集誌社

社告

文藝美術欄内に掲載仕候樂典初歩は夢のやかをる先生病氣の爲め次號迄御預り申候

成美社

○れらつめ代價　一册金八錢　六册（半年分）金四十五錢十二册（壹ヶ年分）金八十錢府外每號郵稅一錢宛中受○每月第二土曜日發兌

雜誌代ハ前金ニアラザレバ御送附不申候金子御差送ノ手續ハ郵便小爲替ナラバ拂渡郵便局トアル所ニ本鄉郵便局ト御記入ノ事幷ニ受取人氏名トアル所ニ本鄉湯島天神町壹丁目五十九番地成美社ト御記入ノ事

○廣告料一行（五號文字二十七字詰）金五錢○十一行以上金四錢五厘○二十一行以上金四錢　但シ前金ノヿ

醫學士竹中成憲先生授方おしろい下（にきびとり）

花の雲

（營業要目）諸大家調劑○諸賣藥○醫療器械○諸和漢洋藥類○舶來和製香水香油シヤボン類○粉粧藥○其他色々

大取次

淺草雷門前　岡本えい

出雲町十六　福原とく

飯田町三、十八　もろ木ゆた

本舗

神田區南神保町四番地免許藥舗

おきなや

花の雲

定價

翁印	金八錢
松印	金六錢
竹印	金六錢
梅印	金五錢

御最寄藥舗又ハ小間物店ニ御座候

いれもの御持參の御方ハむかりうり仕候

開店廣告

本堂今般本鄉新道ニ開店致稗史小說ハ勿論新聞諸雜誌ヨリ學術工藝ニ係ル諸書ニ至ルマデ賣捌貸本閱覽ノ三業ヲ兼廣ク江湖ノ諸君ト其利ヲ共ニセントス伏テ願ハクハ淑女紳士學生諸君御閱覽ナレバ御來臨貸本ナレバ御伺申サン御望ナレバ御誂申サン先ハ開店ノ御披露マデ頓首再拜恐惶謹言

四月十七日開店

なんでもかんでも閱覽貸本賣捌所

本鄉四丁目十九番地　玄洋堂

和田東呂子先生譯

（西洋小說）みなれさを

定價　十五錢

郵稅　八錢

此書ハ有名なるえェきそふィあの作を譯したるものにて趣向の優美なる文章の流暢なる才子佳人の一讀すべききの良書なり

賣捌所

東京本町通一　大孫

金港堂　橫山町

銀座　辻文

博聞社　橋町

通四　鶴聲社

春陽堂　雉子町

通三　團々社

丸善

石橋忍月居士著

（一喜一憂）捨小舟

全一册

正價　三拾八錢

郵稅　十四錢

右は道德上幷に金錢上の羈絆を寫したる者にして無教育の少女の結果と中等内外の位地にある紳士の汚行を現したる「トラゲヂア」也

發賣書林

日本橋通一丁目　大倉孫兵衛

京橋南紺屋町　神戶甲子二郎

醫學士竹中成憲著

改訂增補

肺病養生法

定價金四錢郵稅共金六錢一錢切手代用不苦施本等ノ爲十册以上御購求ナレバ特別ノ御相談可申府下ハ各雜誌屋繪草紙屋ニ就テ御購求被下度シ

此書ハ恐るべき肺病を未然に防ぐことを親切に說きたるものにて之を衣服、呼吸器、入湯、飲物、食物、煙草、運動、寢床、談話、勉強、職業、藥、温泉の十三門に分ち極めて平易に極めて親切に說きたれハ一本を携へなバ益すると尠からざるべし殊に廉價なれは慈善家にハ施本として頒つに最も便なり

取次所

本鄉湯島天神町一丁目五十九番地

成美社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

鐵膓末廣重恭著

花間鶯　下編

定價　金五拾五錢
郵稅　金拾八錢

世間の大喝采を博したる花間鶯ハ此篇を以て大團圓となる策士陰謀を逞らし人心を煽動し遂ニ一事變を引起し志士の盡力に因り官民調和し國會の開設となる所ニて筆を擱す或ハ悲み或ハ笑ひ喜ぶべく怒るべく慨くべく美人あり豪傑あり俠客あり忽ちニして宴游たり忽ちニして變動たり世間ニ名ある許多の政事家を描寫し近來社會と驚動せし一事件の始末を記載して親く其實況を親るの想あらしむ世上の君子請ふ幸ニ一讀あれ

天香外史著

淚の谷　第一冊

定價　金廿五錢
郵稅　金八錢

世間小說の著多し然れども多くハ滔々一樣の陳套ニ過ぎず本舖曾て此ニ慨むあり久しく舖中に小說部の一科を設け廣く世ニ徵して其優妙なる者を撰拔し只管傑作の出刊を望む此書の如きハ即ち其一なり此書ハ社會的小說なれば何れに向ひても支吾衝突の嫌なし固より女子敎育を以て緯とあしたれバ鄙猥陋醜の文字にも非ぞ文章の警新意匠の巧妙看官應さに之を知り給ふべし亦是今日小說界中の一新什ならんか希くは愛讀を給へ

桑原德三郎著

百嘆

定價　金廿五錢
郵稅　金八錢

今日の世界を嘆息の世界あり上ハ一國の政治を掌る方々より下乙車夫馬丁の賤きに至るまで意の如くならずとか道ニ背けるとか樂み少きとか苦み多きとか夫れ〳〵苦情を列べて嘆息の聲を發せざるなし此書ハ則此樣々の嘆[illegible]めて著述せしものにして僞政事家の嘆聲に乙政治社會の內幕を現して其心根を畫き出し權妻の嘆聲には色界の壞亂を明にして其奸計汚行を發き其他各種各樣の嘆聲を假りて社會の內幕を諧謔の間に述べ至らざるなく盡さゞるなく其文章の變幻奇妙なる其意匠の周到綿密なる實に近世稀有の新著なり一たび之を繙かバ會社の內幕を一讀の下に明ニし無旨の人も饒舌家となり無主義の人も卓見家となり頑固の人も通人となり變屈の人も洒落となり世渡り達者となり金貸け巧者となり又或ハ不平家となり慷慨家ともならん苟も世道人心が上ニ志あらん人ハ幸に一讀あらんことを乞ふ

東京本町三丁目
金港堂原亮三郎本店

大坂北久寶寺町
金港堂原亮三郎支店

いらつめ賣捌所

東京神田區佐柄木町	東海堂
同　同　雉子町	圍々社支店
同　同　淡路町壹丁目	巖々堂
同　日本橋區蠣売町壹丁目	信文堂
同　同　新葭町	長明堂
同　本郷區元富士町	盛春堂
同　同　春木町貳丁目	解明堂
大坂心齋橋備後町	岡島支店
堺熊野町	高山發雲堂
名古屋本町貳丁目	石版舍
信州長野大門町	會眞社
陸中岩手肴町	華文舍

發行人兼印刷人　武田安之助
編輯人　榛葉彦三郎

發行所　東京本郷區湯島天神町壹丁目五拾九番地　成美社

第十號

（築地活版製造所印刷部刷行）